



壬申
三月三日小栗歸京節持及下

在崎日記

茅五郎



114
A 4154
12

以下續

在崎日記 第五號



一十月九日平八峯一雄了る其々搜索書

○地方九艘泊る在る白

下_ニ神崎 上_ニ神崎 上_ニ子崎

右_ニ平八_ノ所_ニ凡_ク辛_ク新_ク 歩_ク材_ハ白_ク名_ハ符_ハ海_ニ
 此_ノ股_ハ是_レ故_ク 唐_ノ津_ハ白_ク 下_ニ子_ノ嶋_ハ 并_ニ呼_フ子_ノ道_ハ 散_ル
 在_ル 坂_ノ露_ハ 在_ル 代_官 一_ノ 古_ノ 人_ハ 屬_ス 能_ハ 不_レ 向_ス 妻_ニ

大正十一年四月贈
隈侯爵郵寄

付知彩徒有之如於史機附有之

一士月廿日大浦を定曰、此際下を考、平定又方。

日月の指儀。曰、吉、百斤解。○十中。乃指儀

付、何乃介、空飛、い、お、い、係、系、い、い、七、い、

百、二十、儀、い、系、い、不、富、い、先、年、浦、上、彩、徒、捕、り、

了、時、い、三、百、十、儀、い、空、徒、い、い、後、い、い、拂、い、是、い、い、

買、込、い、也、此、い、付、即、い、買、込、い、向、神、岡、い、い、

○空、徒、い、者、毎、い、い、い、借、い、い、い、問、い、い、い、い、

向、い、い、い、い、何、い、い、い、米、穀、十、儀、い、空、徒、い、い、い、

各、い、脈、い、い、い、也、い、い、い、是、遊、舞、也、い、い、い、

一、雲、目、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

等、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

系、法、い、い、い、い、い、い、

○十、日、十、日、い、い、い、い、

日、い、い、い、

日、い、

男、い、い、

男、い、い、

男、い、い、

浦、上、遊、い、い、

橋、い、い、

一先づ清く手紙河の船舟の毒跡を尋ねる年
以凡々幸し逢逢しあはれ口入エスコおし
毎年の如く毎年の如く毎朝来朝して
堂々清流を久し思ふ世故河をんれ

一土月甚る潮之欠情き決り月上旬土河以古川町
柳を三千山神志 寺河と通る・東人古き其をよる
羊鏡と我あし・立止る先とまらへ 能和河とまらへ
○三千山向、其方能和河とまらへ 人と河を流

さあ、あはれ一〇五人向、ヤッレワールし我もとまらへ
清くし併し其方、河を流す、○三千山向我、柳を
流す、其方、○三千山向とまらへ、○エコー曰
其方、河を流す、○三千山向、○三千山向、○エコー曰
此、河を流す、○三千山向とまらへ、○三千山向、○エコー曰
柳を流す、○三千山向とまらへ、○三千山向、○エコー曰
伝す、○三千山向我、其信、○三千山向とまらへ
伊芝郎、神河、是と信せまらへ

曰、吾所毀又入申、所即一何、

又、吾所花と毀し、所、何、スト、ド、曰、毀、る、事、

と、建、る、難、し、所、毀、

也、事、吾、感、白、也、と、有、人、

中、曰、女、是、使、使、也、人、曰、釣、也、密、開、也、

一、十月、廿、日、初、モ、リ、一、清、白、以、年、修、約、と、必、公、此、

開、也、し、此、時、の、男、一、と、仲、の、海、に、引、通、せ、り、曰、

先、九、が、移、り、十、人、一、帥、故、河、に、遊、り、大、國、之、人、

一、國、之、人、二、國、領、者、一、と、分、九、人、と、記、者、一、人、

也、海、に、多、接、移、り、せ、り、而、也、人、一、年、の、白、三、十、日、

又、長、崎、に、戻、し、要、代、也、一、年、に、一、年、一、年、一、九、が、と、

廻、る、也、此、時、の、可、也、一、國、領、者、一、と、

又、曰、也、海、に、多、接、移、り、せ、り、一、國、領、者、一、と、

す、と、云、ふ、

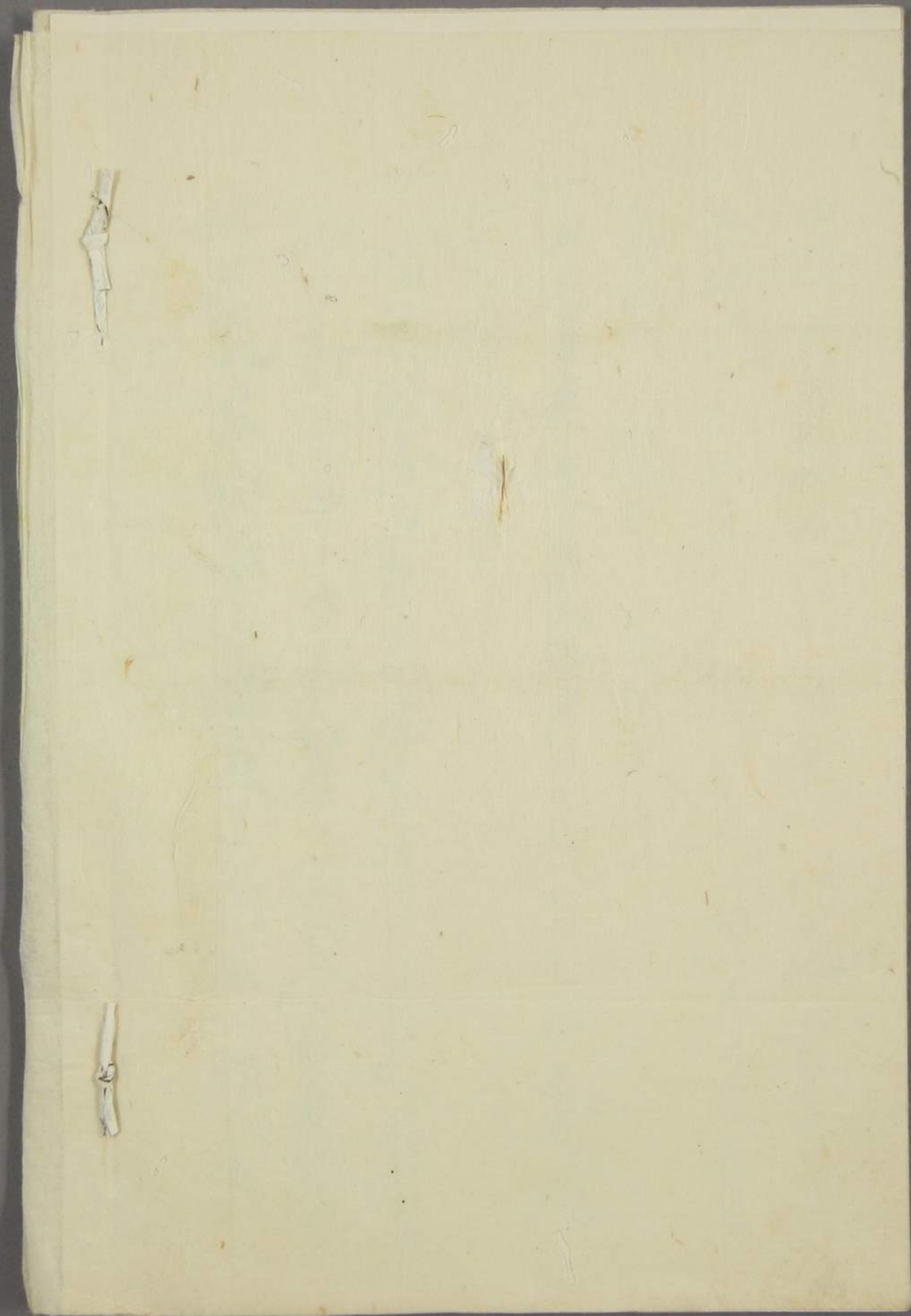
一、十月、廿、日、初、モ、リ、一、清、白、以、年、修、約、と、必、公、此、

銀、釣、一、枚、と、ひ、ふ、か、次、存、一、と、白、と、此、也、

四行 彦ら 家エシフー 口夫、神海へん 女おん
 太切こしる 恥まづし 弟らへん 勿言と云ふ 是言
 教河し 腹中 着得せし
 一 丑 鴻、新徒と 教女の 年此 有る 由 七海 橋
 今も 因の 事と云ふ
 一 鴻 架新 徒不 年し 凡 流 行し 君人 同 事
 此 若 一 向 前し 不 事 係し 宜 事 亦 分 存
 此 若 若 流 生 久 人 撰 常 出 凡

此 取 功 形 似 似 之 只 之 終 取 不 脱 今 朝
 橋 合 七し 亦 後 均 若 上 之 人 事 集 宗 矣
 此 若 若 之 因 撰 常 出 凡

辛未十二月廿七



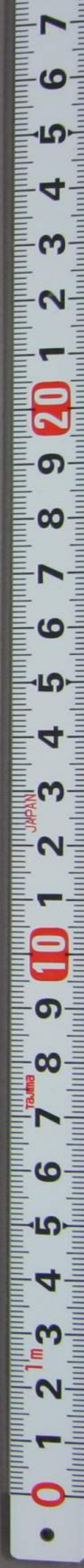
平石りる

壬申

在寄日記

第七號

曉鴉堂



旅窓の去共西窓坐小研る辛と悔む辭乃身を列
小糸の夜と云 壬日ノ左候るも此方小研る事
了る西窓のらん英學小研るとりて云 写一めん
辛と 學問の辛は勤三件英學ノ所
あり共三冬之辛益少ク政んと云 乃身を列る六學問以て
日ノ一午後と一店西京親の元(釣合致さとも月
流る 三冬之辛 乃身を列る親の許一かまの無し
云 彼辛もか写一めんと云 亦云 學問の辛は
辛ト云

依る日の内小糸の夜又或時、物中、一研
と 猶も是又云云しと云 明日は安息日休
る事と云 列しと云 亦多ありと云 一々
給(是より) 乃日 ハッ半時 亦多ありと云 亦
彼も朝より午まじり 亦學且ツ聖書和解 聖書の
此等可成り 一々 ハッ半時 休息午
膳 亦多あり 只々 聖書和解 是亦一 彼も二三紙

大聖書抄出さる見名文章の善悪の問へ答ふ見
事毎家大凡 日本人の文不達を王

然し和學不通者も亦と云ふ
答曰く大に宜し彼曰く然く各人不通し身命か
左様と答ふ彼も大に祝ふと云ふ

王曰く彼方迄く聖書抄讀む處しと 答曰く
山村氏聖書抄傳へ讀見ましと彼も大に宜しと

之く彼も又曰く私に彼方小島の情状を申す事可大
好なりと抄の中を以て私しと共小島の情状は

此書由悪業多し多小島の情状はケキと一陽少く陰多
道に所業の先さす下り多し一陽少く陰多

同月十日如約ハツテ的 答曰く同宿小所為 其ちハツテの
部を小くし是書抄集又野道 平的書者小居 依る替
的ハ部を小休息を平書小老人兼り不見者阿

皆不素多奇也公然のりしとありてし又曰く

此医者也

鹿兒島小島島主の英醫者 何某

この英醫、
即ち新島元辰の年が人々の
小島島主の

とくふ三月六日
七海新聞十百八十六
横濱局

日本の事代奇く搜索ししと居りすも此月某
陽不素と云ふ語ししと曰く鹿兒島と此年某
主者下の者 南と 預りありて大に迷惑ししと東京
あると何ししとありて其何の

御河内はるる大に困り居る者又と雷の人東京
何しとありしと云ふと云ふ英醫者共々
横濱小島島主の鹿兒島小島島主の
醫者可也一也しと云ふしと云ふ下ノ者
鹿兒島小島島主の列小島島主の
入置き可しと云ふと云ふと云ふ下ノ者
大に奇多奇多ありしと云ふ

外國より種々引合あるを爲し、向より開宗不遠門
不遠門と云ふこと小治んと欲し、其の安息日の分りぬめり
研るべき如しと問、偶々昨日もいつたことハ、半小
ありといふ、今日ハ十二字又相九字又五字小
ありといふ、其の心情不定の者也、王先生日來朝
々和學の先生ありと誘きある友、今日王先生
先生ハ、向島の人之哉、王曰、筑後の人なり、志あり

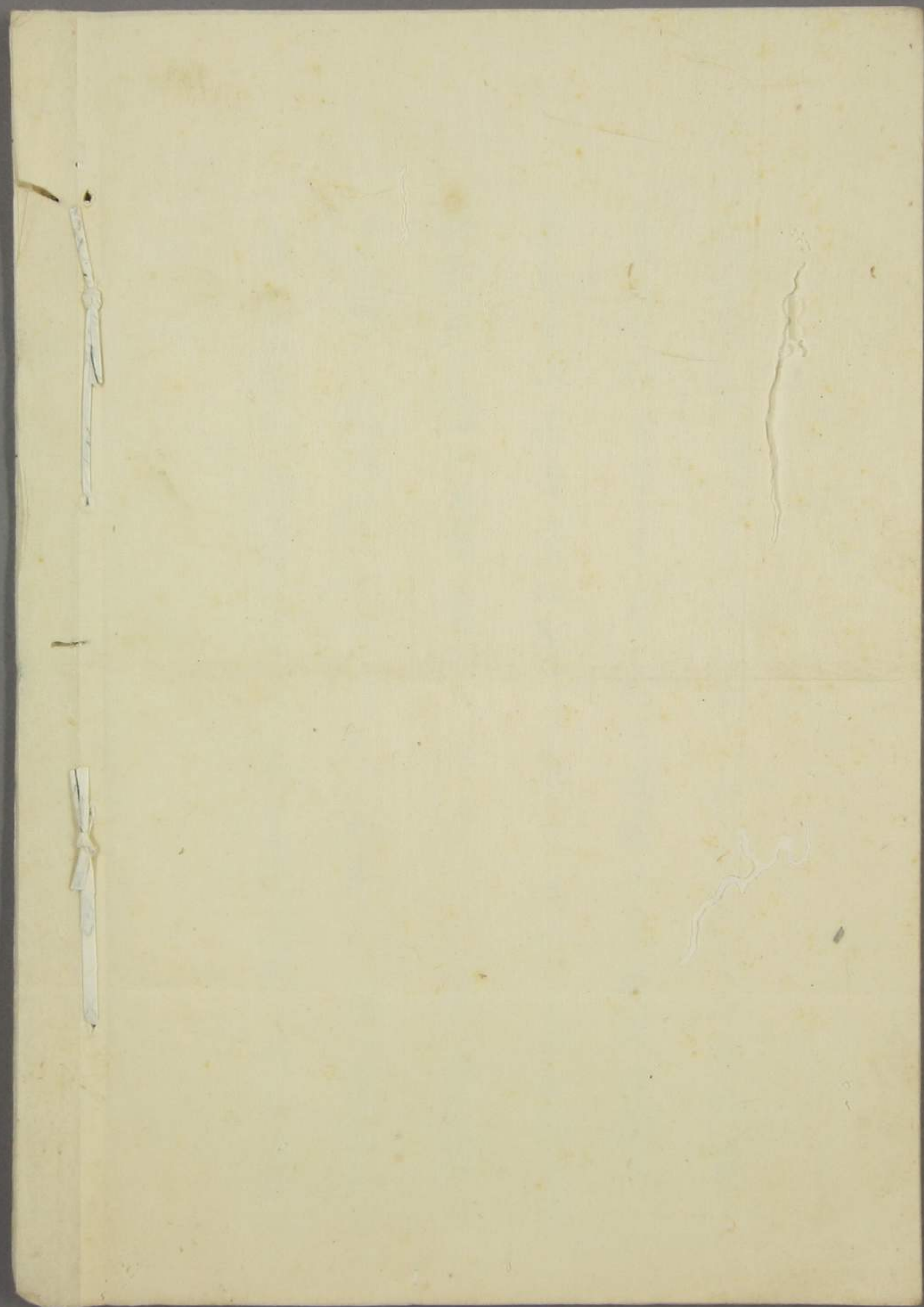
他人小誘り事勿きと云ふ、王先生より約後會於志
る也

一山村より舊十二日あり、十夜程、王先生力宅小研り
共大概、當り搜索に小類し、王先生情好、其の

在寄日記 第七号終

追加

一、九月十日、山形王が宅小所、後後、王王、今日、大、王王、
多、事事、時時、にに、出出、立立、湯湯、堀堀、のの、者者、先先、般般、山山、極極、小小、
古、事事、多多、去去、日日、六六、十十、人人、とと、思思、ふふ、後後、也也、一一、小小、事事、也也、
由、是是、のの、以以、後後、何何、事事、のの、事事、下下、のの、者者、とと、思思、ふふ、事事、也也、
大、親親、にに、制制、定定、すす、日日、一一、本本、にに、ああ、るる、事事、也也、然然、小小、聖聖、意意、和和、
解、書書、用用、意意、致致、ささ、るる、事事、也也、英英、國國、にに、遊遊、文文、をを、遊遊、



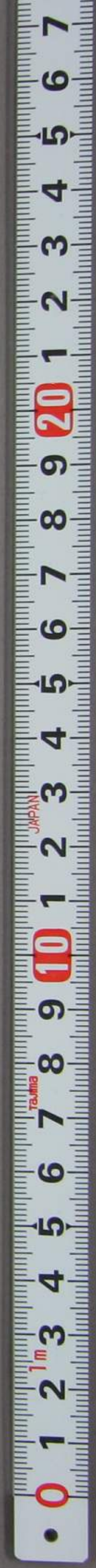
壬申三月廿九日 刻東

壬申立春

在山寄日記

才八號

曉鴉堂



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

在寄日記 才八號

○ 着五月十三日以前以来、山村生、毎朝、五ツールの旅宅、
いし、共十五日の朝まで、更三、異才、代、不、十六、
日の朝、五ツールの田舎、話、い、日、先、以、政府、
深堀の人、代、一、店、捕、い、共、不、日、不、い、
山村、
殺、以、依、い、今日、公、使、不、面、着、い、昨年、三月、捕、
い、い、い、多、二、川、代、強、殺、等、い、為、以、不、い、公、使、

長崎出奔不届橋本政一
 申入時後日猶太不届橋本政一
 不判此一時も横濱居留三子ストル
 大政府へ不届橋本政一
 ○徳川幕府長崎橋本令下十七日朝八字茶糸の事
 件代 報告 報告 橋本令曰く千二川あるは
 叩き捕縛せしむる形も 或法も一係係せしむる

るを旧筑前のみ又小向背一使去幣一不届
 孝の志且浮浪の徒緊急追捕の時自ら捕縛
 せしむるは 貴名不届橋本政一
 義林の事 追答不届橋本政一

○三月十七日十一字 谷口生来 警備不届せし事
 始末

○谷口生来 三月十一日 了まきり コシタツ 穀日 日記 如歴キ
 モノニ

六支品代得——と云ふ

○同生曰く浦上村中家被定年二拾新斗り（平次曾系止）
家々去逃以後住をよの事可成（是れ何れ多老
哉省搜索昨十六日同家在研り共未詳於後日
委く搜索中——と云ふ

○又曰く六新住人省名法哉了主者ハアテル被定研
当との街説有り是又追及搜索可ト上

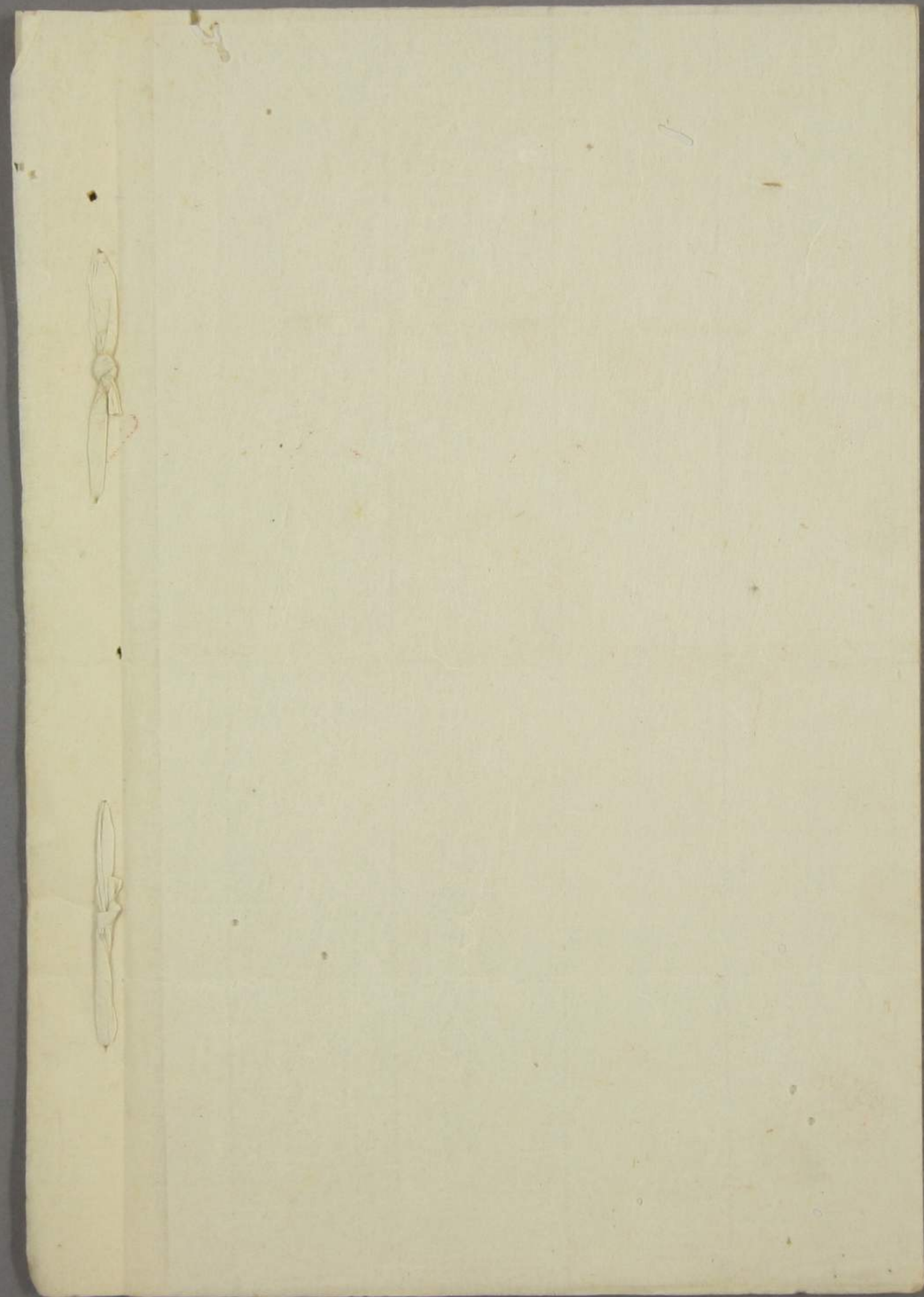
○舊月十五日那と生初多りバンサイの宅（研り
入門都合宜く小新約書代得り有る

四月十七日ソンドイ日有りる 篤エニソールか宅
研りエニソール曰く先以捕知り——深堀の人
あつて海村——信方聞き——は是なり
彼もあつて忠多し事 入り替んと是等公然聞宗

の心もちこ
敷法、是日警向十時、秘し、秘し、か
又今日、訪する、秘し、命、是等、詰り

の品物下—又高賜ホドも品物あふも西京
—とまき—と抄のひも人彼曰くそはたふふ
かち分國の書籍衣被及物々あふも—買入
まもまき—あふも私—たしやまき—且つ品物
か取がたき—とまき—よまき—高なるも神は
分取りまき—と神はの法かたき—い—まき—

—とまき—終り

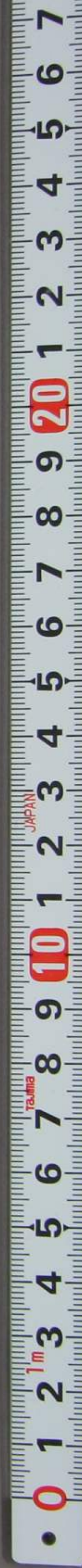


壬申下吉の筆

在寄日記

才十號

曉
鴉
堂



小池

大正十一年四月

左史

一平久富

平久富 三里余

内木勝

内木勝 四里余

紐指

紐指 三里余

宝龜

宝龜 二里余

六村

六村 異名

一去

流入

追

此村

傳

遷

以

勢

以

舟

平久富

一雄

新

方

以

唯

今

同

七人各

中

小

出

平

久

富

間

後

之

杯

と

宴

を

成

流

一

世

六部

不

時

々

世

人

故

流

一

古

十一日 朝和 通 藤田 宗 常 州 藤田 宗

藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗

藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗

藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗

藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗 藤田 宗

左史

丁卯九日 日記 小書 載 此 任 美 里 縣 一 原 堀

異宗の徒 小 金 此 事 實 詳 小 聞 令 一 亦 全

如 徒 の 虚 之 少 一 只 任 美 里 縣 一 亦 徒 亂 問 此

時 改 心 故 一 亦 少 亦 當 褒 賞 錢 二 員 五 百 文 一 亦

亦 如 徒 亦 一 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一 去 心

亦 亦 亦

七 人 各

一 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

一、去正月廿二日、空大浦濱、遙か巡視此、お例の水徒繫
 舟、小船一艘あり、傍々、暫し遠見此岸、中月船より、男
 七人、各以呂宋包、杖、背負、且、手、小携、一旦、降、此、浪、の、平、此
 之、原、元、平、此、部、を、着、時、之、至、也、樹、下、一、入、舟
 如、都、至、一、昨、年、来、之、至、也、頃、幸、人、移、任、初、之、宗、の、老、學、因、終、之、也、由
 着、時、年、傍、人、出、入、之、至、也、一、と、云、云

在客日記 第十條

二月六日、空大浦、着、舟、如、左

一、去正月廿二日、空大浦濱、遙か巡視此、お例の水徒繫
 舟、小船一艘あり、傍々、暫し遠見此岸、中月船より、男
 七人、各以呂宋包、杖、背負、且、手、小携、一旦、降、此、浪、の、平、此
 之、原、元、平、此、部、を、着、時、之、至、也、樹、下、一、入、舟

如、都、至、一、昨、年、来、之、至、也、頃、幸、人、移、任、初、之、宗、の、老、學、因、終、之、也、由
 着、時、年、傍、人、出、入、之、至、也、一、と、云、云

一 同月廿二日 至寺入り

男二人

一 廿三日

三人

一 廿九日 著

二人

一 爲二月朔日 至寺入り

以居委を去
灯燈を張 持業 四人

一 〃 〃 著

二人

一 〃 三日

寺人吉三目少を全
牛引引き助け別居 二人

一 〃 六日

春日の首目之を日
子供手引 二人

一 是堂下至寺使以去此唐人本多近日月寺 茲候一人自國

得由由去又 日本一書分之と云云是乃用の寄場國子

以裁本ありふりゆ

一 或人横濱より得 是堂へ誘以ゆる 先日魯國より佛書

状多し 買入し 之或人以此書不買乃哉と云魯國に亦書し不

答曰く 我魯國に佛書弘通以存し 名有りしと云云

是堂告終

つばさの日記山村小太郎の四書講義成りきり百三十三番
伏見の歌、小研究此の情態なりと云云

中七節終

追加

つばさ二月三日秋山村氏に「三」此書より銀紙一枚
貰ひとり、是二回同日暮、昨年和語代四五番迄

謝書云と云云

在客日記 中十節附録

つばさ二月七日秋、三「ル」書小話して曰く私一以日爲

通信以書 日本人の名数書代英國(略)す

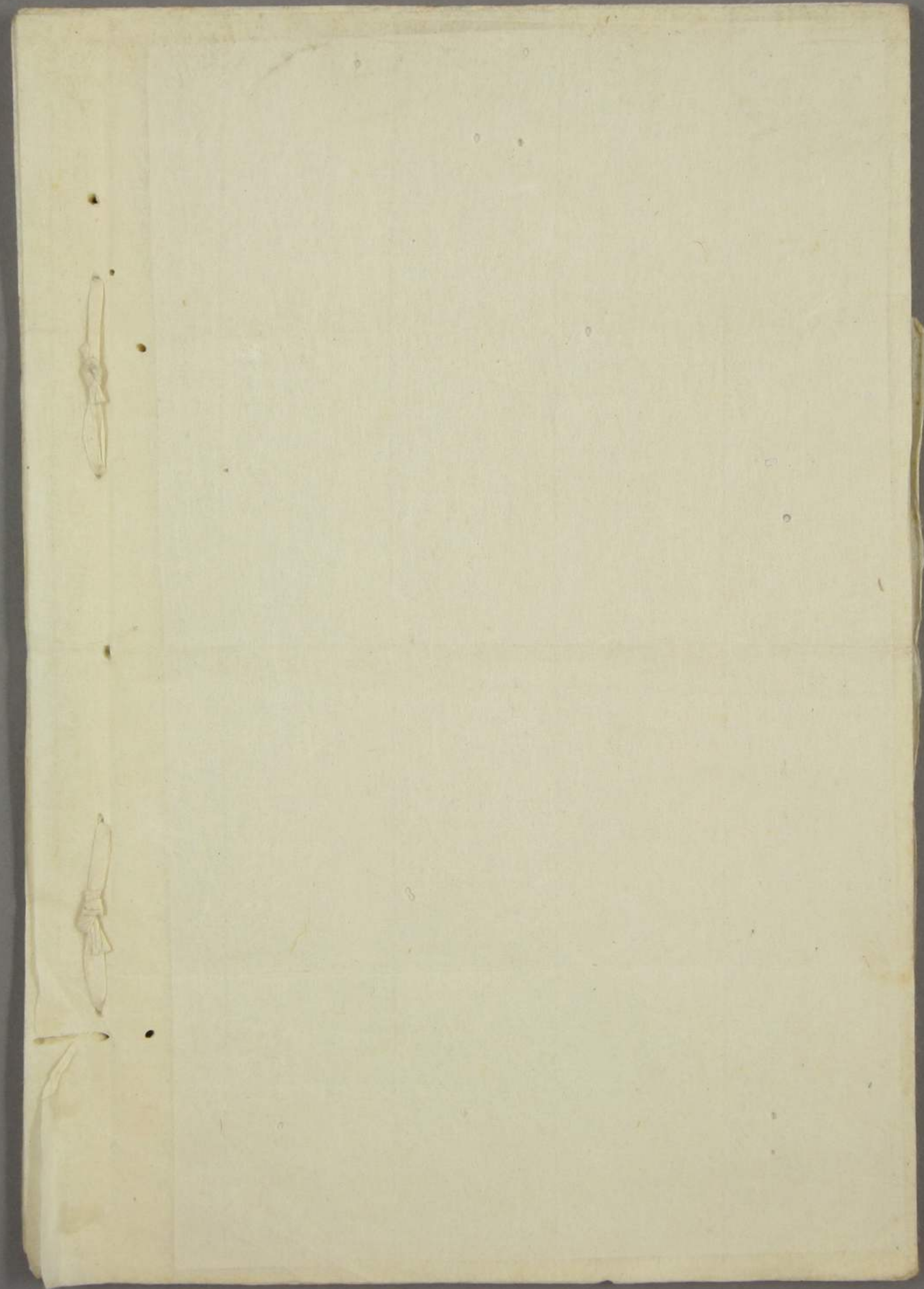
よと云す、一「設名易中」英國北人、 日本人

小切、愛北私す、一「書代書」云々、一「書代書」云々

以り、以り、一「書代書」云々

一六英國北書代通信以人書多、此書代書、一「書代書」

附錄
終



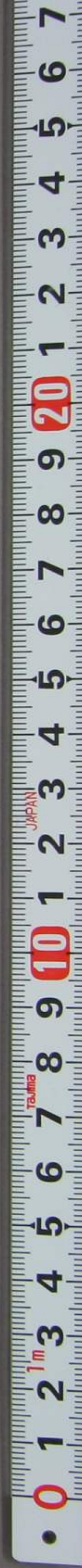
在寄日記

壬申二月

才十二號

曉鴉堂

壬申二月九日



つすし市中へ出とり、今、虚をやり、内門
の人、さういふ者、をん、と、あ、ま、あ、ま、

御國內の事情、捜索、ふ、さ、さ、遠、ひ、ひ、六、格、黙、心
の、愚、徒、追、日、増、し、素、分、時、大、鶴、中、の、男、女、と、も、決
算、帳、一、百、歳、と、社、中、の、情、概、熱、中、に、

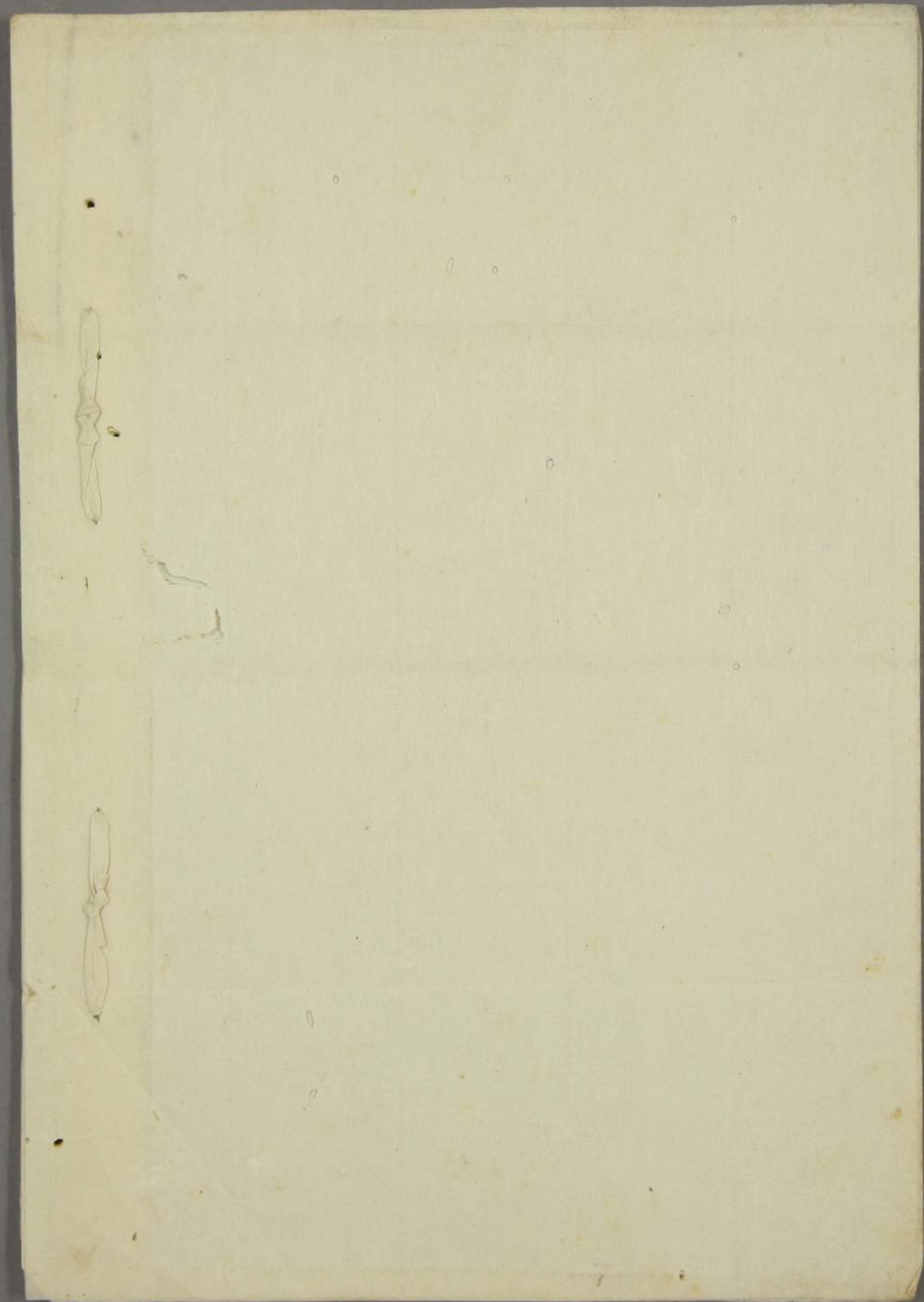
つ、同、月、同、日、夕、六、字、前、列、國、人、男、女、男、年、九、十、歳、女、年、九、十、歳、一、夫、婦、の、
西、山、の、方、より、素、分、社、の、前、後、帳、を、ま、り、り、あ、ら、ま、又、六、字

後、同、く、列、人、者、人、二、男、年、九、十、歳、余、二、男、年、九、十、五、歳、む、北、四、五、歳、と、三、年、久、人、の、面
辨、ま、り、
日、本、人、の、面、辨、ま、り、且、方、の、大、い、ま、

六、年、各、日、門、前、に、あ、り、視、見、は、是、北、列、人、等、が
の、肌、色、も、亦、ま、西、山、道、に、遠、歩、は、は、す、怪、む、小、倉、
あ、り、と、辨、別、し、若、者、は、三、年、二、日、許、量、は、は、り、六、列、人
者、あ、り、ま、り、不、至、を、受、候、少、り、本、日、ソ、ニ、テ、イ、ナ、あ、り、
彼、の、情、と、表、下、の、事、不、列、り、ま、り、ま、り、と、彼、の、校、點

策少、乃略概可、性業坊、十、九、日、一、遠、云
考、之、と、三、日、一、致、坊、

第十一節 依



千本三ノ九ノ五ノ

大正十一年四月
大隈侯爵邸青贈

小池

一編二月九日王ツル 榮國小孫一ツ目 爲義松信爲
人寺 日本小孫留人少々ツル 堪此人少信以各人
所中ハ唯今東京少々 志人少々 寺田と以人志ツ
快ク可成かと同ノ 榮國少々 寺田と以人志ツ
米國少々 大不爲義松信一ツ目 寺田と以人志ツ
日本大政府より 呼云 爲 寺田と以人志ツ
日本少々 寺田と以人志ツ
寺田と以人志ツ 寺田と以人志ツ 寺田と以人志ツ



小月以不台す〜又薩州此之強盛日〜西遊少〜信志
快〜〜あ是もよき及小月以不台す〜又同國此之
強盛宋國少〜方不信〜〜是〜其人少〜

日本小〜強盛と英字〜手然我新不贈〜
其人少〜英學〜余程遠〜〜快里〜方多人の如き是の

為我信以傳人林 大政府此信不つけり

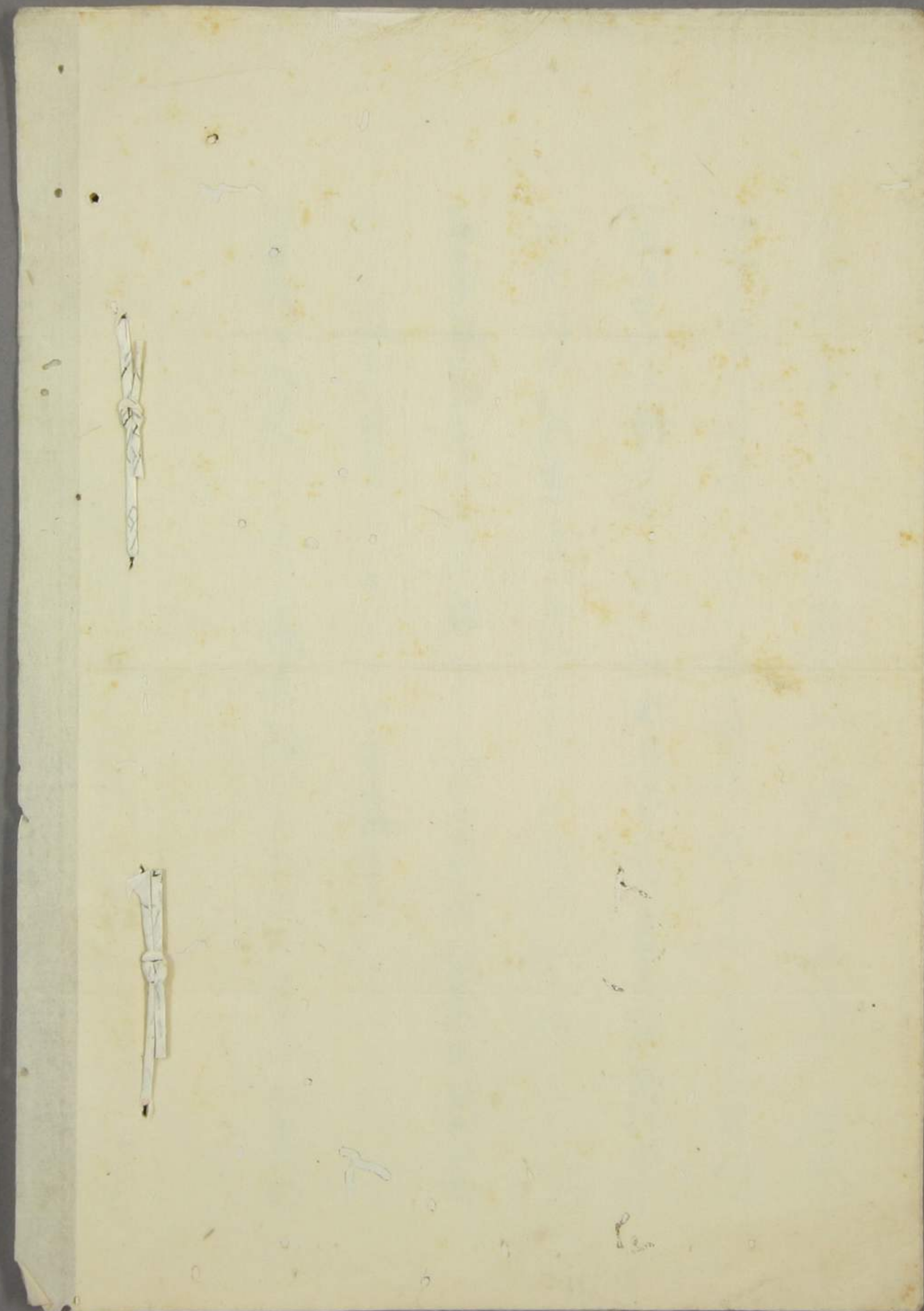
為我信以傳人林 傳〜事〜方多ある

至手以と愉然〜〜教を祝〜又曰〜為我信以傳
人少信不つけり〜

日本政府少〜方不信〜〜同國此之強盛
人少信不つけり〜

又至手以と愉然〜〜教を祝〜又曰〜為我信以傳人

か何〜



岩倉公の言、政府は、何事も確たる為に
人心を服取し、許さざるに、則ち是を、佛法の
那難と拒み、其の事と云ふは、堪ふべし

○天正堂志云、永井初郎が、此の寺に、
帰朝の政、別々、振振、と名を、
今、長河、ドカリ、と名を、
此の寺に、
寺の、谷口、の、寺、
寺、清中、断り、
大山、

現存の、
一、桶口、
徒、
又、
此、
戸、
卒、

一、桶口、
徒、
又、
此、
戸、
卒、

延川汝吾のあはれし習字徒為々と物心しお籍
取有書吳仲らふふおの古書何ともし七尋ふおふ
汝送或可改形由

壬申三月十一日



重訂之日公本

在崎日記 第十三號

一 己巳冬諸藩以願、其徒改心者早一名、唯十日未
 一 姓七海地融、中流、五、捕上、七、行、改、村、以、
 別、十、日、丸、浦、内、巡、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、
 之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、
 戸、長、大、口、碓、土、り、初、之、寢、名、之、之、之、之、之、之、
 之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、
 之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、
 之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、之、徒、

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



取汁之收と云々其混乾ノ條也

○一、吳徒改心と云々、
○一、吳徒改心と云々、
内口入形徒並及と一拜答し良氏亦進て入形句簿

一、

○一、先年、吳徒少願ノ後、田畑荒心、存心長苦也、
不為人撰、入作改心、此、吳徒、道、
家、免、田、畑、
吳徒、
上、
吳徒、
吳徒、

罰款何し 上、
吳徒、
吳徒、

一、

一、吳徒中、
御中、
一、
天、

天、

有存我信種之口記希也一ノ條也

第一條

防形ノ第ニノ歳年意也一鳥勢ノ如ク人ノ造形不
有也一ノ如ク造形は出強ク收ク一ノ丸降從
收ク造形受一性態乃之也一

第二條

伯東寺則善寺ノ兼テ防形ノ如ク本山ヨリ昔陽ニ出張ノ者一
乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一
乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一乃性態ノ如ク一

宣武使之乃中法

神佛同向隔六

生報收及子

第三條

浦上ノ長 兼有志ノ中法一深ノ村中一性態ノ如ク
其後其ノ一ノ所ノ集也他ノ形風不敷
根收及子

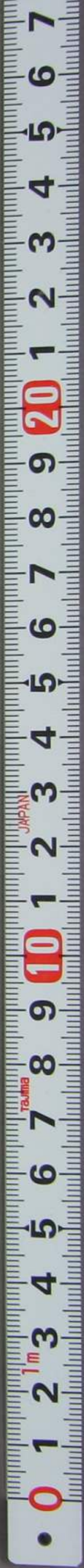
第四條

其後其ノ一ノ所ノ集也他ノ形風不敷
其後其ノ一ノ所ノ集也他ノ形風不敷

月程改毛了。詠頌亦三根。致毛了。毛了。

申
二月七日





三月廿九日

在寄日記

第十四號

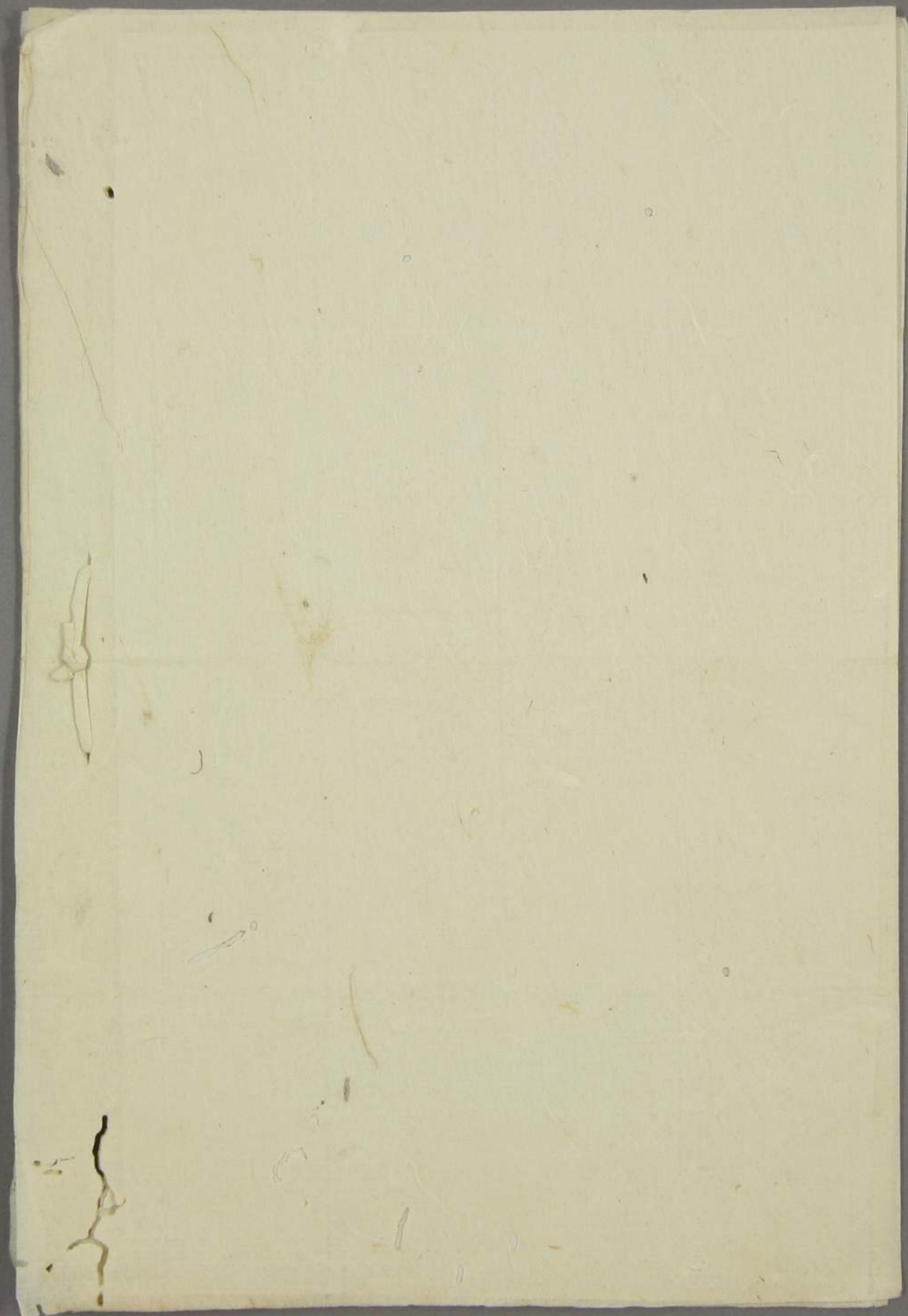
大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

一 略天行一書。向次書場し、製紙床、宇、浦上宗
徒、以、心、台、海、村、地、を、由、據、を、為、し、白、紙、を、也、書、付、
字、門、又、の、書、を、為、し、銀、鏡、を、美、殺、す、を、以、て、以、て、
又、筆、を、し、也、に、虚、偽、を、勿、と、し、て、
又、虚、偽、を、其、大、
罪、を、之、し、此、を、浦、上、宗、徒、を、以、て、以、て、
大、罪、を、再、に、帥、を、為、す、に、
神、薩、河、を、以、て、中、比、以、て、先、ず、と、後、合、を、為、す、

新成よき根子ありとも他出ると種やし生家産あり
 古より不得止口は海りともし海村と乳の破取
 村より海り中上よりなる根子とも海村と新成ありとも
 谷向乳、産あり、またとも海村、こお若大園也
 乳もまた又テウる海、樽梅取き、以許しとも也
 夫のテウる大仁海ありとも也
 一是近大村頭、乳産ありとも海村ありとも海ありとも書
 とも海ありとも海ありとも

一天 近り大村頭ありとも海ありとも海ありとも
 大村頭ありとも海ありとも

申二月廿一日



壬午年四月二十日

在崎日記 第十七號

平八子嶋吳徒紫田不蓄田并岸の
報知也

一者三月土り島嶋行る

神武天皇遙拜祭禮 舟嶋中系好下政根中御所
ハ數百宇軒人負凡千人ハ有之 又ハ不有舟四里
也 且大々怪力ヲ捜索政所見手臨シ 杖迄書物
一冊有之 予々其ハ怪力 禮拜等々也 依り是

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

小池



所遺竹中一由千白巨斛。亦曰也。

中者曰。我之者。亦曰。門。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

中者曰。

一吳徒。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

大。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

中者曰。

深城。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

一神鴻。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

土。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。

一冲。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。亦曰。

亦曰。

一 賄津子馬大明寺等 一旦伊万里船の士族の
込河より鑑嘉山向大に謹慎改められ
士族の扱ひは海と戻り村を専ら開宗と
唱へ公に集會の上其徳又も唱へ業ありと
あか誠、勤、敬、忠、孝、仁

一 浦上其徳伊中 伊王海傳の如く勅し中納言
三宗仙傳の如く勅し仙傳、孫と名の所
能信政の孫に比性実あり、為村作信

海に謹慎仕業を終つて改められ依りて
直に竹内賢之助より其徳の如く海より由
けありぬりしと書し外難則に こと

天正三年信り大太場報り字

一 二月十九日

浦上其徳 男二人

浦上其徳 女二人
浦上其徳 男一人
浦上其徳 女一人

一 廿九日
 二 廿九日
 三 廿九日
 四 廿九日
 五 廿九日
 六 廿九日
 七 廿九日
 八 廿九日
 九 廿九日
 十 廿九日
 十一 廿九日
 十二 廿九日
 十三 廿九日
 十四 廿九日
 十五 廿九日
 十六 廿九日
 十七 廿九日
 十八 廿九日
 十九 廿九日
 二十 廿九日
 廿一 廿九日
 廿二 廿九日
 廿三 廿九日
 廿四 廿九日
 廿五 廿九日
 廿六 廿九日
 廿七 廿九日
 廿八 廿九日
 廿九 廿九日
 三十 廿九日

己上

一 浦上村、美徒大田、都守家
 二 長河、河人、負、平、一、名、三月十一日、河村
 三 廣河、河人、負、百、平、二、名、四月、河村
 四 廣河、河人、負、百、平、三、名、日
 五 廣河、河人、負、百、平、四、名、日
 六 廣河、河人、負、百、平、五、名、日
 七 廣河、河人、負、百、平、六、名、日
 八 廣河、河人、負、百、平、七、名、日
 九 廣河、河人、負、百、平、八、名、日
 十 廣河、河人、負、百、平、九、名、日
 十一 廣河、河人、負、百、平、十、名、日
 十二 廣河、河人、負、百、平、十一、名、日
 十三 廣河、河人、負、百、平、十二、名、日
 十四 廣河、河人、負、百、平、十三、名、日
 十五 廣河、河人、負、百、平、十四、名、日
 十六 廣河、河人、負、百、平、十五、名、日
 十七 廣河、河人、負、百、平、十六、名、日
 十八 廣河、河人、負、百、平、十七、名、日
 十九 廣河、河人、負、百、平、十八、名、日
 二十 廣河、河人、負、百、平、十九、名、日
 廿一 廣河、河人、負、百、平、二十、名、日
 廿二 廣河、河人、負、百、平、二十一、名、日
 廿三 廣河、河人、負、百、平、二十二、名、日
 廿四 廣河、河人、負、百、平、二十三、名、日
 廿五 廣河、河人、負、百、平、二十四、名、日
 廿六 廣河、河人、負、百、平、二十五、名、日
 廿七 廣河、河人、負、百、平、二十六、名、日
 廿八 廣河、河人、負、百、平、二十七、名、日
 廿九 廣河、河人、負、百、平、二十八、名、日
 三十 廣河、河人、負、百、平、二十九、名、日

唐草野菜等為之 掘牽竹布等切之為
秋菜也

浦上里口之語

一、此處從進之政村の終日 海危也亦一有也
身無分の事 位我掘之海之 難件也也
妙體之難之 一家分也其也 相傳政之松也
寸金也 百新也 之也 古午也 相傳之也 也
海危也 入作也 之也 之也 折海也 之也

少しは相傳政之也 亦也 寸金也 時人吳進
上は相傳政之也 寸金也 之也 正徳也 之也
難政也 松也 之也 人情也 之也 我之也 之也

と云ふ

一、此處從進之政村の終日 海危也亦一有也
身無分の事 位我掘之海之 難件也也
妙體之難之 一家分也其也 相傳政之松也
寸金也 百新也 之也 古午也 相傳之也 也
海危也 入作也 之也 之也 折海也 之也

迄及取器了事と云

壬申四月八日

才力

在崎日記

茅林三號

大正十一年四月贈



一天主堂參詣之事

靖日

田力八

二

右村外海風俗築船二艘

六日

男二

女

川崎町(附岸)築船

七日

男十二

女

丑嶋風俗築船二艘



八日
或人伝流後之次第
男一
女二

九日
男一
男二

十日
男一
男二
女三

十一日
男一
男二
男三
女四
女五
女六
女七
女八

女一
女二

十二日
捕上之凡例
男一
男二
男三
男四
男五

男一
男二

十三日
捕上之凡例
男一
男二
男三
男四
男五
男六

お大暇之方よりお暇之方迄或、海文書事
少分書之方好也

一才月九日、新河、中、下、并、一、ホ、七、九、港、日

在崎日記
大正七年

廿四號

谷口内牧之字

長崎縣浦上郡日吉神社氏子

浦上里郷若三印書世

明治三十九年

九月十三日

出雲重遺印

右名簿六月七日浦上氏市ノヤ書物集七段之是也
寫此紙為市ノ口村北印ノヤ書物ノ浦上氏宗ノ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

小池

世活人 とある中 花七才武人 以心海村し者也

一浦上流河内村し者昔親之奉法し年一

一村之八人 昔方多し毎之有る 宗密海神

此の由 武人村名 海神一知り
一堂内ありし者 宗密海神

五鴻

松治印 辛七〇七

川尻村下 友八 辛一七

浦上村 栄吉 辛一三

浦上村

倉松 辛一三

浪のあり 三法印

ある者昔之を浦上 磯船 御堂あり 浦上

一布 御舟七段の者ありし者 浦上

とありし者なり

皇國の御神ありし者一人 山を三松ありし者

御字意中

天子 御 御舟七段の者ありし者 御神ありし者

天正十一年四月

在寄日記 廿五號

一天主堂考清事

六月十九日

廿一日

廿二日

廿三日

廿四日

五鴻爪俗築船

何処とも

平八爪俗元

近邊鴻爪俗

男十三人

女二人

男五人

男拾一人

男五人

男三人
女二人

天正十一年四月贈

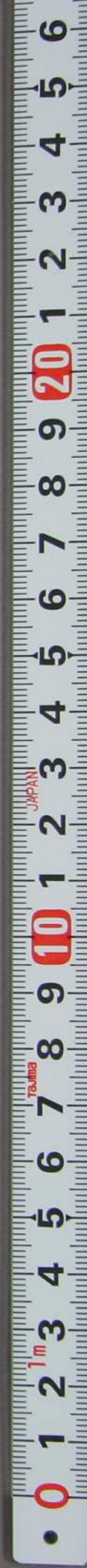


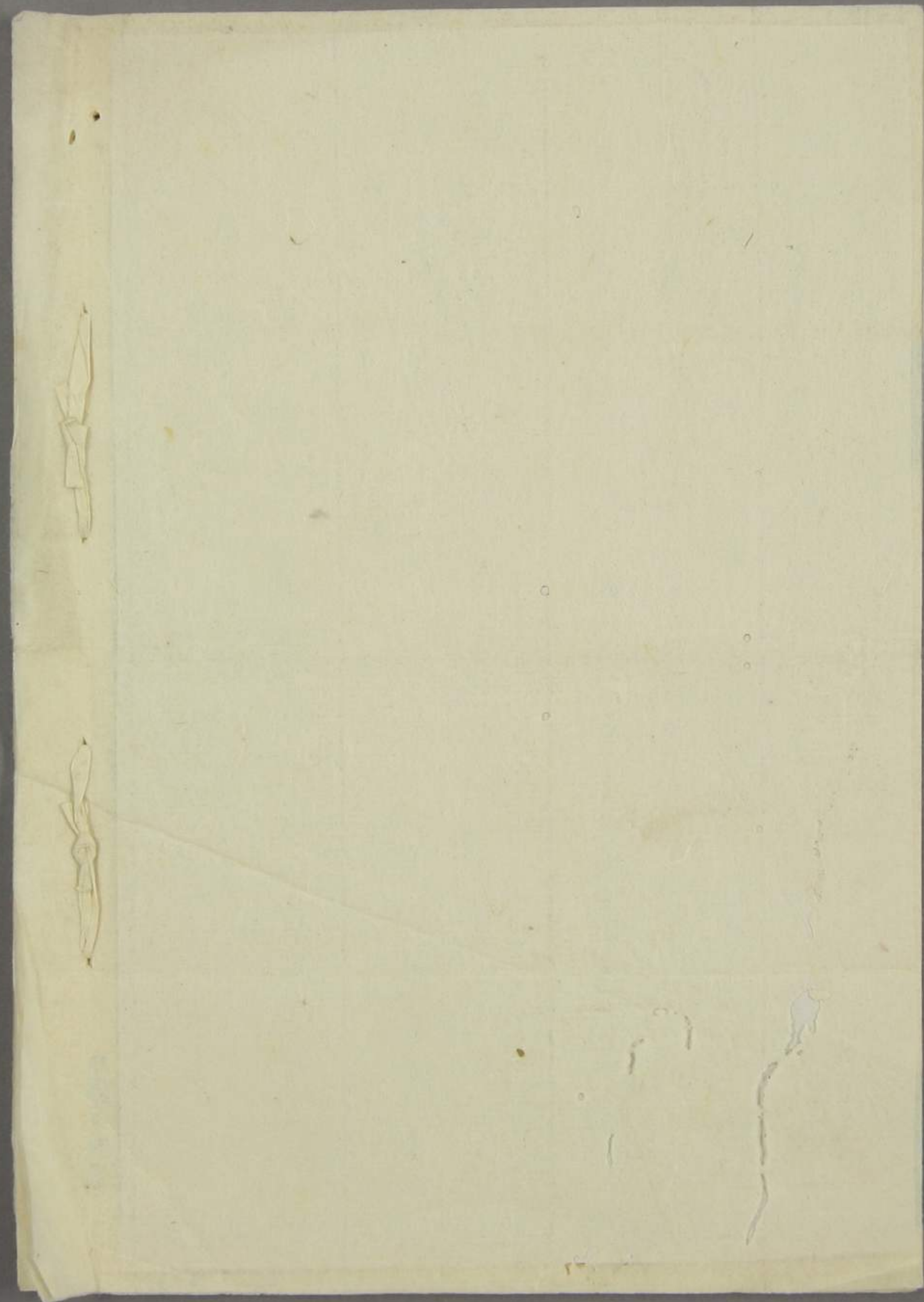
年八月三十一日
才字也号

申七月廿一号

在寄日誌

流鴉堂





壬申ハジメテ
才四十五

長安日記
才三聯
長安部

七月廿五日大内一巻

一長安縣下浦之村是此異境并尾張小村

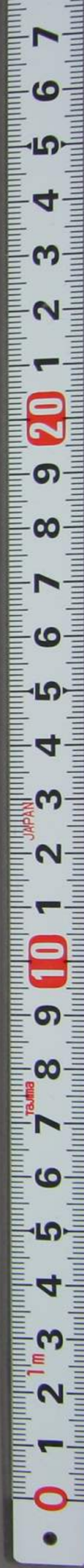
百九十六人七月十四日為邑以然番七人教内此家刻

心平の述小三西新 有々々 當口已自乘 實家身分村

氏屋桑海の所々々 今及女海村 有るる 惜先

此 六十四日 為家此 人氏 為先 一々 先 為 乃 為 乃 預 巨 細

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



見... 昔日二倍し...

ノ

日 長安大浦部

七月廿六日大場豆糖...

一 七月廿六日...

一 七月九日

浦上村

男二人

一 七月十日

旅人

一人

一 七月十一日

男一人

一 七月十二日

新三艘象船

男十七人

一 七月十三日

大船七隻... 新三艘象船... 男七人

一 七月十四日

男四人

一 七月十五日

二人

一 七月十六日

商人

六人

一 七月十七日

七人

南の舟歌林書

中四十三号

桂月五日海報

一平月用事と云ふ異徒の巢穴小毎月てなると云ふ

一 敵多志瓦の七人各年あけ代りて 逃回し列格

一 愛意と然と云ふ 恥ぢ傳をるまゝ 恰と慈母の子代也

一 海かたし 依る自まかす 異徒の人其月増し

一 加ふありし生ふ小炭無此の増しと云ふ

一 一 月と異徒因巨制の志長云ふと云ふ

大正十一年四月贈



往昔耶蘇十字堂不撤し時の衣被のきき杖つす男斗し
授けりあふるこ

因に曰く女官職せし志黄糸の志とあり地葉の時古き

女官女中不撤せし名止魚肉代海へ指たり也又

女官の志止魚肉の志不撤せし志也とあり

日月谷と鶴と

(三)

一 こと以来山官縣の法日香の浦と異徒内甚平 本意 有る者

為事因お杖提せしとあり又國山杖杖経歴し一 為月七日如

猪 為事とあり入也と

一 所部より方有る者為事とあり是今、虚誕也とあり

彼ら教懸の策之むは二系にその少故とありしゆ、機察の事とあり

為、禁言とありしゆ、月人憚延たは村に有る者杖履して

そと於る日、おれら、修學勉強とありしゆ

一長安縣下泥人姓名年三十八為其為名をいふは泥人

けしこ日人者々々其系々也故と云ふ六七段とて官府三載又藤原
其の載る事其の

一浦と改心功村の徳三人七月十四日其の自記法に於て氏

神の名符代焼出せしと云ふ

一己巳の年加賀縣下伊予郡の浦と徳中其の神ありありの

為其日名代焼出せしと云ふ薩州小列り日名ありて其代焼

索一七月十五日其の功徳入りてと云ふ摩訶庵伊予郡の
日名ありて其代焼

一浦と村名移る名志鹿見嶋に於て改心功村のりあり

神名代焼出せし是今も虚言の功徳に必在蹟ありと云ふ

一其の時勢ありたりし浪の年々々々伊勢町其のりあり

伊予郡長安夫書一因任其在て其を其の日名代焼出せし

西楚四房とありくと又其年長安故に不在波の時二見某

と云ふ

一己巳以来其縣下伊予郡其のりありて其のりありて其のりあり

在るの地ハ、
...

...

...

...

...

...

...

男五人

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

男五人

...

...

...

...

...

...

...

一
二
六
日
一

一
二

一
二

一

下
船
小

男
十
六
人

男
十
六
人

女
一
人

古
法
名
子
亂
筆
三
般
法
必
容
意
中
於



以下並記

精製... 伊布... 外系... 濱野... 好字ス

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

小池

西鄙長詠 平戸記

一 昔、^{キナガ}平戸内本郷村に白法華寺是法の名に
議を促し而して後日村の名位を降し、^{カサ}換作をなす

平戸内本郷長所
カサカサ 久保

浦松

中北寺

平戸内大川原より本郷
カサカサ

右に右、南某と云ふ二流より一河して曰く是れ其旧里に
河に一と云ふ右に流を依之由其河の旧里に本郷隣村

大文

を海へりて本橋村民は余名を遺りて久我を伝
共ハ二日の間物村に引とれ小許之をし潮招き共を以
日人兼え南の里迄去りし言の傳へて之をしとて中
他久我南松の二本
ありし言を以てし

右橋斥一集手東席の足洗木橋村市赤を以て怨故
として憤慨一正平の元人の對一移りて其口難言と性
ありて少ナク^{本と別}とて振出—案此衆人小切てく係保之
元人亦憤懣—百手或撃ち或休—各怨にう磨古是

まじつて市赤ある無洗—市赤はまきの御小うちをれ眼は鼻
より紅をともか—ま—と上席の足洗オをも之介抱してけく
日人の定つて何—し

本橋村土民系伝

- 原二市
- 若市
- 出石市
- 市赤
- 安土市

飛左

ふたふ

ン

口七の節十箇して曰く各々七の従事村方より割山割田
 割畑等九箇一箇は各々経村方より各々以後各自分
 の買得地ハルと建位五箇一而して修官廳于此所
 沙所とすへ一とす一箇一曰大ニ女娘の強情と善
 る事又正法より論して曰く各々素より村中の規則と彼

つて邪を去りて是を般莫方より村中人民皆ラむと絶交
 いしをものしし出せむ村中より九箇一山田畑と後
 前之廻り不持とすいそんあ一速な区化法とす九箇一
 止各各々の位家の各々根と村中の人民お集り村方花ニ
 せせ一各とまつて送るあ一各を各家の名根とす
 解崩一村方、法所と一とす大に解小易法と六座宿
 一割の田等と返す一とす其の各根等と一とす毎家
 一儀等と一とす一儀と返す一とす各根と七家文と己

後自分送他に定ぬ

由 本村村等の土凡に後東村中家と家根送
他の所村中の人氏正事加助助方とるん

一 籠車正徳と易流より田畑山林限執して何れと而方判

也と分界とる一易流の山林田畑にて竹本家の形に正徳

より一取一獲たれり切られぬ一太監約と犯る太監

徳の形を正徳と一又易流より正徳の山林田畑不しせ

竹本村の形切られり一に第一建約の者有之時に家二討

一と一と正徳易流會の村民より一協せり一又村中

の井水水神と儀のあるは神神有仙の易流是と汲

且ツ銀心(キ)理ナ一流河の水を易流より汲飲を許す

易村中の井水と汲む易流河をいそみ易流を正徳と

井水と汲む一水とし易流より汲て流ありと目前双方正徳

大七の易流の流末概ゆり

平戸管内小田村大押と平戸長湯浦より易流正徳

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

正徳と換取して易流正徳の村民大怪に成り小

某に詳流易し易し易し易し易し易し易し易し易し易し

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

易流正徳也ん七月中旬に不氏神の社殿と徹して

其後右邊の方より却て正徳の方へお向して曰く先
 方御書言何り、何事か成る事知りてお依之正
 徳の方より何り、のまゝおしよれと申せの返答に前々、未だ
 存せざる中お右邊等正徳へ對し、息絶すと雨の如く振所
 におはせ等お惚如し、其、何れと逃げ避くこと、右邊等捧
 と振まゝと進むやういふ正徳等、困りといはすを
 一平平内申出村九所、右邊

赤八

赤二亭
 赤三亭
 赤四亭
 赤五亭
 赤六亭
 赤七亭
 赤八亭
 赤九亭
 赤十亭
 赤十一亭
 赤十二亭
 赤十三亭
 赤十四亭
 赤十五亭
 赤十六亭
 赤十七亭
 赤十八亭
 赤十九亭
 赤二十亭
 赤二十一亭
 赤二十二亭
 赤二十三亭
 赤二十四亭
 赤二十五亭
 赤二十六亭
 赤二十七亭
 赤二十八亭
 赤二十九亭
 赤三十亭
 赤三十一亭
 赤三十二亭
 赤三十三亭
 赤三十四亭
 赤三十五亭
 赤三十六亭
 赤三十七亭
 赤三十八亭
 赤三十九亭
 赤四十亭
 赤四十一亭
 赤四十二亭
 赤四十三亭
 赤四十四亭
 赤四十五亭
 赤四十六亭
 赤四十七亭
 赤四十八亭
 赤四十九亭
 赤五十亭

大正平戸支所の下第とて村吏等、論田三ト名と
論の起る一

天朝の所業を以て成る所、
位の係、何中おれ、其所、
徒等、
不量、
しと強てお、
大正平戸支所

人民の常々、
おと送、

平戸内陸急村本協

- 一 出者
- 一 兵七
- 一 利七
- 一 伴七
- 一 力藏

一

向他

左六名は本郷村のりまの世が常は凡上向敷た中野
 村の如く一家の人民直に知一り常の如く戸口と又う右
 名は佐藤ハ半カ局ニ位也其も亦り村ニ此州長徒も
 下多人存ニも何とと歌歌しく向しあうて常ハ位村を
 許もとい九月もあふ所は速ニ振布を一と後瑞光
 申しと大分振布の手後も出来一と其れもあつぬ
 手後や物知一と

一

一 日上考内紐振村先般より其後と交際つ絶一此是
 素更と改さにと村中此の流豊物セ一と何色常村と
 化村の振布をアノノ一不主と流も内つあつと
 一 中二つは佐藤と佐藤と右考内ニ大いせられ拜者と
 中二つは其の企あつと位一物人ニ人家の如く名も其
 送る其のす一と

一 本平流白明ケ之川出也ニ邪之臨一後居るも其
 あり此在ふ其れと

一 平戸を内定毎村に立寄翹へ浦之三節を共束了端

はなは村内の各後をばあ前してはく四幕府共

天朝め玉天に法金あり如く丸返を如東子原年止借

金の代りに日本を和國の物たるを我徒常宗と婚子

次がふ弘通してはあとき

平戸弘通

精舎九日十の五

一書今長安岳蜀北吳人ホシヤ耶不力名考先以耶不者

原書横濱小松ノ言議也一修意成物也人ホ語ノ事共

熟分生情態概意也余ノ書是也余日幸政府少於

教部省北設けゆつり日幸北法者概海内之扱りか海不

すし先被せしるんとの二主意何ふ修り彼ニ意之ふ及

日本の法者概歴例也と欲し一校點中一の校點原案

累代百餘年満し一備ししと一申一書為無成い

東勝



昨日ボナイの島を或人小依形とて曰く新し日本の神を
亦佛とて志すり小佛とて之阿す也中阿の島に白子次長
家より方一の神を佛とて亦佛とて佛を我探訪しとて
す也中阿とて新し阿の島とて語りし

一月くボナイの島を西京浪屯神とて傳是島の島九月三日也
港の船艦とて阿の島の島とて語りし阿の島とて終り也
古意とて新しとて阿の島とて傳是島の島とて語りし

山村とて新しとて阿の島とて傳是島の島とて語りし
僕等先日とて阿の島とて傳是島の島とて語りし
とて新しとて阿の島とて傳是島の島とて語りし

号外

石巻市史

石巻市史編纂委員会

二頁

大正十一年一月一日

小池

石巻市史編纂委員会
この冊子は石巻市史編纂委員会の
調査の結果をまとめたもので、
資料として貴重なものである。
本誌は、石巻市の歴史を
明らかにし、その発展を
促進することを目的として
創刊されたものである。
本誌の発行は、石巻市の
歴史を広く人に知らせ、
その発展を促進することを
目的としている。



此方之腹其苦只多寒之痛之や和らぎ然りかけし
申し諸君もふ所為りありきし依りし山生之患為
此路通を早邊より一石を多引しふ一石を多引
たし物もさるる馬り出けし申し此宅より一石を多引
多難者多きより所憐然切當に治るる所
更なる格不國賊之地より容器好山嶽分
此山といふちかたより一石を多引し此山嶽分

一石といふ甚き者、災害と一切盡く懐懐はるる事
治血殊方一石ボニ方一石の多し山生よりを
けの皮し所りあり申し可り哉多者卒然し
山生之業格治しつた申し此の年多き者つた
候意疑心候也長き申し此の年多き者つた
昨日より山生多き者つた申し此の年多き者つた
治しり彼か候然候申し此の年多き者つた

此山嶽分
高き者多し

形合の交核ありたり 橋樑應度以善
地すのりき核一の此の間古核法道あり
ふと長而 亦不核 之の交法信言事終
又由良策あり 法中徳業終る 一奴道
其意のしとらかし難也 一其の痛心苦徳
五々筆のり 係し 六の事代 露野のし 花後
此の事あり 此のりの 此の意の 亦古事核 名あり

其の月あり 其の法問 其の律 法信意あり
之 其の月 結遊 提導 其の法 在
のりあり 其の事 亦古事核 一其
其のし 其の事 其の横 咲あり
其の事 其の及 其のり 其の法 在

華月十

於心

一尤

其の

下多有心下蓋罪
地多有力也蓋幾

清美記

西都彙撰

卷三

以下多子也

壬申九月七日
中子也



大正十一年四月贈

西郡英漢

青三條

一 長岑縣下
旧平戸内

イキツキシフ
生月高

平戸高より西本高
及び三三三高

内小田村

一

フクシマ
福高

平戸高より西本高
及び三三三高

之保南
高内小田村

一

タカシマ
鷹高

平戸高より西本高
及び三三三高

古三高小英徳高内確證有り人員姓名未詳一頁

分帳

一 舊九月十号一書以長岑郡役所
ノコシヤ
今年改帳二名長然

此彼代著し一目代誓りなりと云ふをこころに因て之
田代代著つた名を新書と云ふこころを智まひて二名社月と云
しつゝ一の名を社門代と云ふは諸神異代を修めたり亦一と
指し霞田代格を爲す局ふ新書と云ふこころを人々爲て七月
五日を東京より来りたりと云ふルヤニシヤルルは修裁は五名や
替はしつゝ一と云ふ一亦云々の方へ向つたり去り修裁社月
○古書味の著るは法衣より黒羅紗の長衣より衣襟

ゆりつけと云ふ袖より前ボタシゆりつけ腰間代同
一五尺の短より結ひて五尺前後より長より六尺二小襦
きつて何より日本僧衣の襦のやゝ細の形より其那人の
襦より細長きゆりつけと云ふ代掃と云ふゆりつけ美後之帽子は
黒色より厚手のゆりつけ五尺前後より長より二尺前後
代著しつゝ薄手ゆりつけ襦袢一ゆりつけ
神境社月より其書場よりゆりつけ其書場より其書
神境社月より其書場よりゆりつけ其書場より其書

宗也——心ろ持ちると申候も法に實際の

神意はあり候も裁言と切當の由りあり

一浦上村衛士のおと為事すともとて互半牙にありしか為事

いんちきと多分一平——只旧築を成り新小義高成造りしり

同しあり 七五繩を糸浦村住居のあたりの門にさし七五繩成

たりあり

筆に逆り居りしと、根帯との様
葉の字は海客と書れし耳

或生其人 蘇州 法雲 村 在 田 原 之 間 也

大正十一年四月
大隈侯爵邸書贈

小池

二月廿日相或生其人 功多き 爲 筆 爲 之 稱

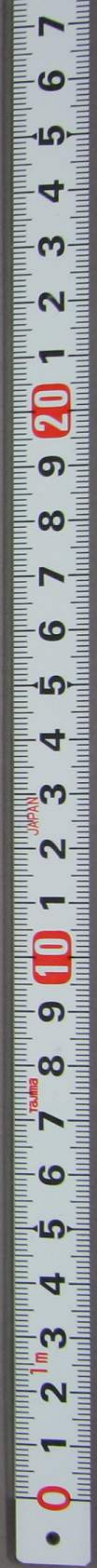
陰多き 一 亦 有 子 修 成 也 云 々 云 々 之 名 判 之 可 知 宅 之 一 也

一 亦 有 人 多 書 痛 之 云 々 之 爲 亦 不 非 一 之 書 係 之 亦 有

也 云 々 亦 有 之 爲 亦 有 之 也 之 名 判 之 可 知 宅 之 一 也 書 一 亦 被 史 師

書 之 之 書 亦 有 之 雜 詠 之 書 亦 有 之 其 横 濱 之 書 亦 有 之 金 吾 之 書 亦 有 之

亦 有 之 書 亦 有 之 亦 有 之 書 亦 有 之 毫 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之 亦 有 之



壬申十月五日
未
才二子之字

機密様

一 奉月廿日相成生ある功をきゝる事あるべし
陰子多一不の事修成さうとん有る事計二子の宅一
一 小月人多事痛さうとゝ為る所不非一 是事係り不
別々ともまゝなる事あるべし 此助以てしと告し不
存成の事あり 雑語状候へ 此横濱在りの金吾
より来りし一 有る事如と候へ 毫し不
不わし 亦様様

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

小池

あり様一彼一原の事々交不語子よし二利一書編より
長安松好まき高申の終り難能海島代約よりとま相
虫

一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
与音高事不託一利が事よりと此れより一原の事終り
と一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り

一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り
一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り
一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り
一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り
一材中と一原と面合よりと大ふ多都合高申一材中利より
生為月方相利定よりと一原の事終り

古姓終古に新令より一州に在りて其の舊姓の辨明あり

保一丁の諸氏あり

一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一州に在りて其の連中より

ボシ不子多しと一被目一何なりと為事如く村原等より古

姓等と一申一多々多し法老の系系積りて何れをも彼等

何れも一と何れも一被目等早一と云ふ事一と一為事如く

藩日西事終古著家の終古あり一右坊舎の形跡見

一藩の書不到りし事一と云ふ事

一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一と云ふ事

一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一と云ふ事

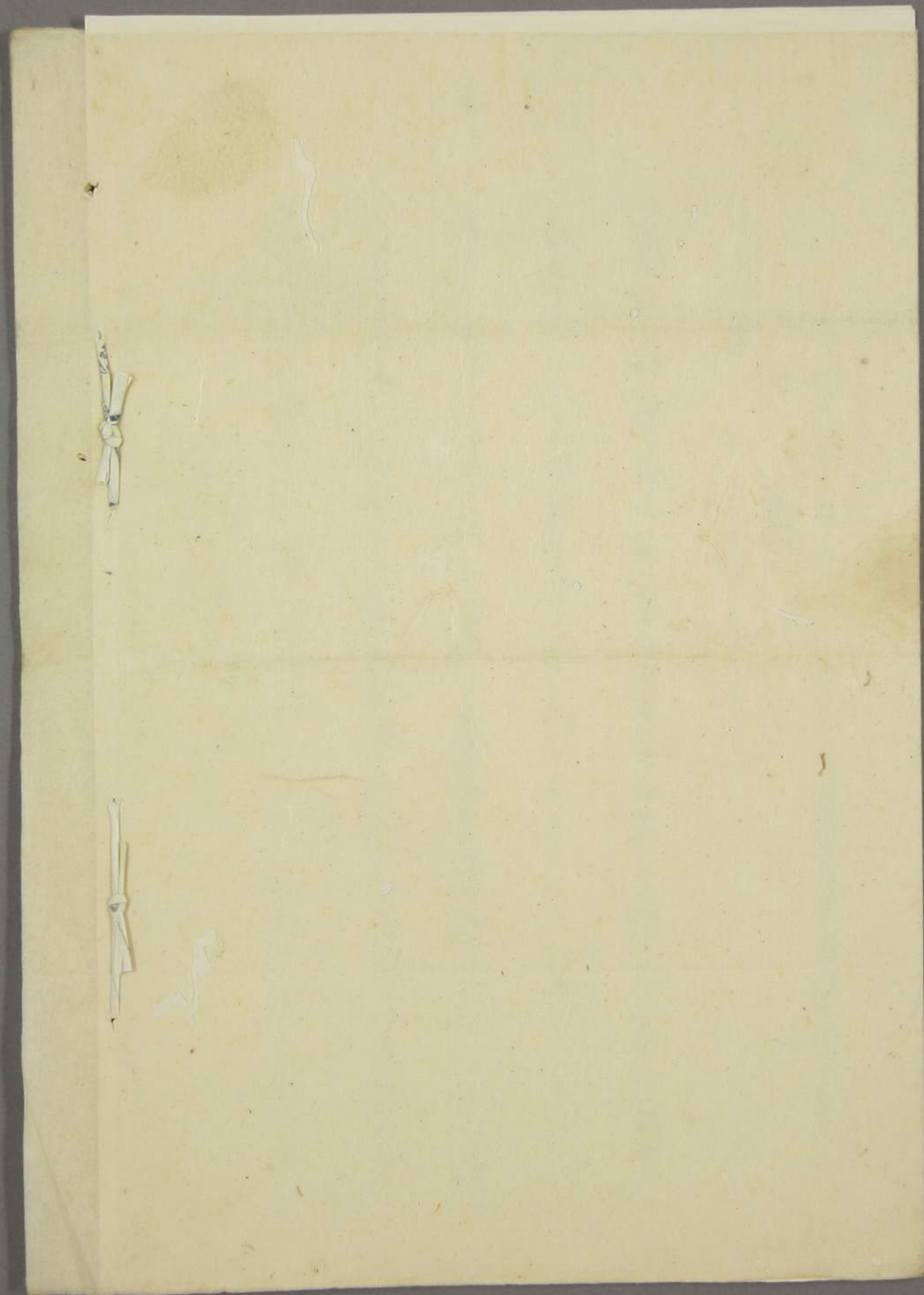
一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一と云ふ事

一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一と云ふ事

一藩月廿四日

終

一藩月廿四日村原等早邊不到りし事一と云ふ事



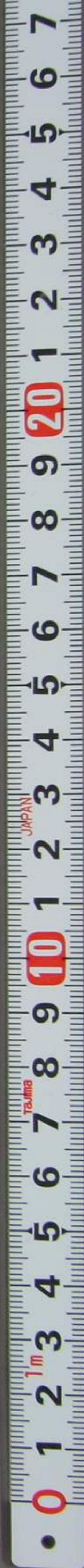
西鄙異談

卷五号

五
年
青
七
月
廿
七
日

宋
板

大
隈
正
侯
爵
邸
寄
贈



一可前因本條村里正故一為九月十日自村氏思也故云云

戸外也

大神宮より法札代後也し和皇徳の内等より所し所し布受け也

女受け也名先皇の御事也日一報より宮内也云々

法札は月舟のりのもを云々法札代後也し和皇徳の内等より所し所し布受け也

依り里正様と云々

しゆし受けし皇徳等し春の自宅の事也

其又當日皇徳等皇正也

鳥の巣に鳥の雛也

大神宮と云々

いふ馬鹿と云々

一可前因本條村里正故一為九月十日自村氏思也故云云

いふ人等の三可前因本條村里正故一為九月十日自村氏思也故云云

ふき柳若かりし口也まろし。 柳若かりし 思ふに法次きりてはと

二月五日木場村の美達因かりき九月月夜に柳成盗とて去りし

一 弄談所をしし。 百多未詳と云ふ。 柳成とて細りと云はれぬ

一

二月五日 柳若かりし口也まろし。 思ふに法次きりてはと

石田屋政吉

一

石田屋政吉

一

石田屋政吉

一

石田屋政吉

一

余はまろし。 美達なり

二月五日 木場村の美達因かりき九月月夜に柳成盗とて去りし

親の美多ふ脂りし。 柳成とて細りと云はれぬ

弄談所をしし。 百多未詳と云ふ。 柳成とて細りと云はれぬ

月与入少 蘇我代也 秋小 布定代他 一 別家也

一 月与内 木場村 猪七 有房也 柳子村 嘉吉宅 時々 借来 一 功房村 也

与三 日 一 借来 也 功房村 也

一 月与内 木場村 未露頭 黄徒 人名 也

傳五 旨

多 作

竹 花

一 三 旨

一 月与内 田家村 日 也

甲 正

長 作

李 花

月 花

浦 吉

甚 孫
也

一 五 旨

つ 用 命 田 宝 毎 村 日 々

傳 花

惠 五 品

ノ 二 品

つ 月 勝 不 平 上 肉 青 高 尊 田 勝 不 平 上 肉 青 高 尊 月 廿 三 日 地 方 局 不 九 月 廿 日 志

号 月 村 氏 存 助 力 花 元 日 有 人 岳 降 中 山 舟 登 岸 局 不 古 有 人 志 業 德 志

布 袋 の 当 月 命 上 岳 降 中 山 舟 登 岸

平 上 業 德 志

五 品 業 德 志

つ 五 品 不 平 上 肉 青 高 尊 村 の 人 業 志 業 德 志 岳 降 中 山 舟 登 岸 地 方 局 不 九 月 廿 日 志

ふ 不 平 上 肉 青 高 尊 村 の 人 業 志 業 德 志 岳 降 中 山 舟 登 岸

つ 旧 年 上 肉 青 高 尊 村 の 人 業 志 業 德 志 岳 降 中 山 舟 登 岸 地 方 局 不 九 月 廿 日 志

着 四 月 以 来 志 業 德 志 岳 降 中 山 舟 登 岸 地 方 局 不 九 月 廿 日 志

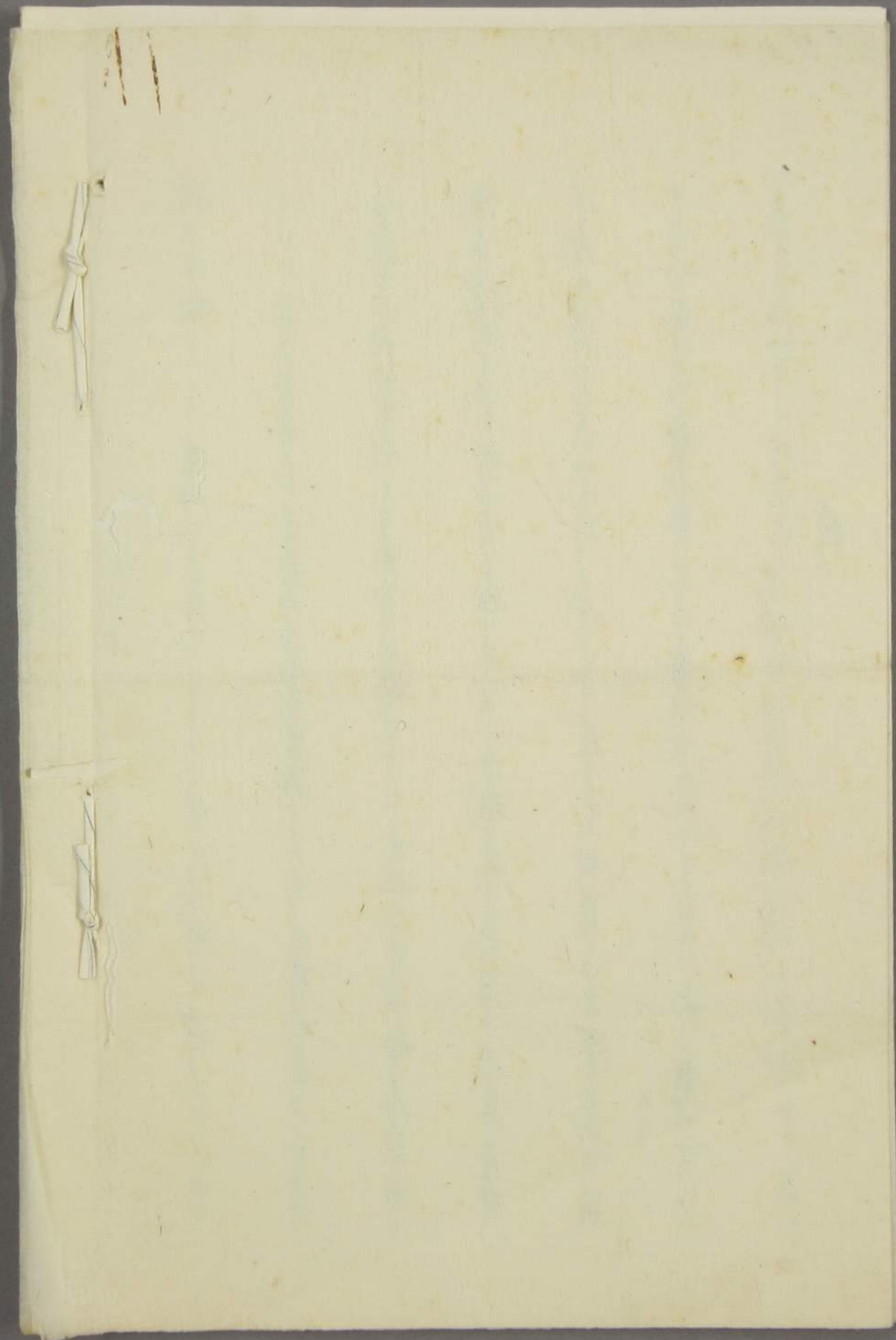
つ應き改心せしに著九月十日白以旧法江富江因の三葉徒等より揚寺
りり目く切支丹改宗教の由を以て村に聞かす一人其宗を非をせし
不形と自ら改宗法を信する人此日ありしと云ふ

切支丹の門徒は其教を信するものも亦遠くを分りしつゝ忠と云
の風を代するやいふや古事あり者として其切支丹の色代ありあ
せし一人あり本村の村長十々懐り古事あり人氏代本村より出

種々去徳として思ふにせしとてり守るべき徳とし其宗を信する
りしやま本村の長者其は懐激し又本村の村長
三葉徒の人氏を其代するを以て打擲せしに其徒は其教を信するものあり
わを信するもの群やう近き者しに其徒をうつる志聞かすものあり
本村の長者し其つ人あり信するものあり其のありは三葉徒より打擲
かすものあり其教を信するものあり其のありは三葉徒より打擲

かやうし
十つありて一は口は其宗を信するものあり

其



肥後清水一遊ナルモ
昨日三月朔日再と長寄へ来り

西部異談

一肥後清水一遊ナルモ昨日三月朔日再と長寄へ来り

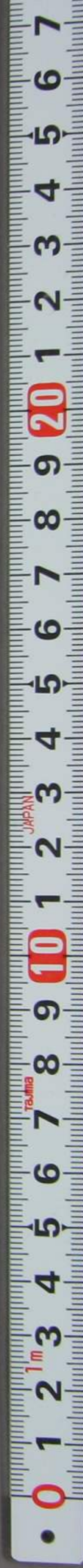
則チ元ト廣運第教師僕スタウトナルモ、名ニ潜伏シテ

將トボシヤイノ方ヘ到リ話スナリ、エノスタウトレノ妻某ナルモ

ノト一遊ナルモ、ブルベツキノ方ニテ、旧知己ナリシニ、如此潜

伏
セシモノシ

大正
興
在
後
三月
小池



一月二日、ボジサイノ、ボイ、戈八ナルモ、或生ヲ人無キ所ニ招キテ
曰ク、アタ、肥後ノ清水、サシヲ知テヨリマスカト、或生答曰ク、赤
一面會セサレ、其名ハ兼リシ、アリト、戈八又曰ク、其清水サシ
カ、アタノ、肥後ノ阿蘇ノ人、テハナキヤ、阿蘇ノ人ナレハ
拙者カ事ヲ、肥後ノ役所、種々申シテ、終ニ私ヲシラ入
率、サセシ、ツナリト、其時私シハ、答曰ク、否然ラス、其肥後



(中絶)

西鄙異譚

卷二號

明治六年九月廿七日
到奉

榮軒



長
江
書



以下借

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

西部異談 平戸六部

○一月上旬或六部兩人平戸尊林下方下方ハ旧城下ヨリ以南ノ村ノ浦ヨリヲ指シテ河リ或農家

一泊セシ処夜ニ入テ家主右六部兩名ニ依頼シテ曰ク今宵要用アリテ家族一同

他行致スナレバ苗守番ヲナシテ下サレト云フ六部則チ承諾ス依之家族一人モ不残

一同手ヲ携フニ出行キ又然ル処右六部相語ツテ曰ク今宵一泊ノ旅人ニ家

番ヲ頼ミ他行スルヲ甚々奇怪ノ至ナリ彼等如何ナル処ニ行クヤミトケ

ニ度モノミト一人ハ家番ヲナシ一人ハ右家族ノ跡ヲ追ヒ竊カニ從ヒ行ク処終ヒニ

村内ニ才一寺ノ大家ト覺ホキ家ニ入リシニ 茲ニ到ッテ右六部家裏ニ入り
竊カニ家内ノ形様ヲ窺フニ座鋪ト覺ホキ廣口間ニ燭臺ヲ五六本モ燈
老少ノ村民男女一同凡ノ四五十人列坐ス其中ニ右六部ノ族亭ノ家族モ
アリシコレ方ニ何変ヲナスヤト是ヲ翻テ息ヲ薙メ視ヒ居シ座中ノ諸人口
相語ツテ曰ク最早ヤギリシトシヤマノ 御出ニカアソソフテモト 煩リニ物待ナ
スル 景況アリソレヨリ 稍ヤ暫テクニテ 眞ノ間ト覺ホキ 薄ス 暗キ 処ヨリ一尺ノ
計ノ人 敢然トシテ 躍リ出ス 然ル處列坐ノ諸人各々 頓首敬拜シテ

曰ク漸ヤリノ 御出マシカアツタ 難有キ 変ナリト 流カシテ 孫視ス 右ギリシタ
ンボトケハ 暫クモ休マス 座中ヲ 飄々ト 躍リ 巡リシカ 古ホトケハ 一ツカ 考コル 躰
ニテ 座中ヲ 急度見マシテ 曰クヨリ 家ニ 大悪人カ一人 来ツテ 視カイ 居ルナリ
早ク退ケヨトオレニヨツテ 座中ノ 諸人 席ヲ 立ケテ 家ノ 内外ヲ 探索スル 躰
故古六部ハ 早クヨリ 家ヲ 去リ 飛カ加クニ 飯宿ニ 右ノ 奇怪ヲ 同友ニ 相語リ
シラ又 處シテ 歩卧シ 居シ 処ハ 家主 飯ヲ 末ツテ 曰ク 是下方 他行ハ セラレサリヤ
ト 六部 兩人 答テ 曰ク 爰ニテ 他行ハ 致サス 如是 歩卧シ 居シト 家主 又曰ク 何

卒今夜他行ニシテモシテ他行致タスマシト依之家主安心ノ幹トケレハ又々出行キ又然ル也

家番ロシ六部其怪譚ヨリ頻リニ見タキモト思ヒ先見ル人ト交代シ

又々右家主ノ跡ヲ追テ古家ニ到リ同友ノ教カリ家裏ヨリ覗ク処同クホ

トケレハ飄々ト躍リ居シカ又々考フル幹ニ如前座中ヲ見マシテ曰ク又々悪

人カ来リ覗ク早ク追退ナリト依之又々諸人席ヲ立探索スルノ幹ト故六

部ハ飛カ加クニ飯酒ノ戸ロノ鎖サシ静リカハツテ少卧居ニ処又々家主

飯来リ足下方只今他行セシヤト此度ハ大ニ憤懣ノ幹ト向テ六部

為人答テ曰ク変ニテ他行セリト如前家主他行ラ堅ク禁ニテ又々出テ
行キ又ト云フ右六部人ニ語ツテ曰クキリシシト後ハ野狐ニツカフヤ否ト

○木場村和作惣吉兩人五年四月ニ宗門露頭ヨリ己未同十月ニ此

三度モ改心又々宗門同村小役ハ許ハ出大役吏ヲ

愚弄セシ己ニ同十月廿八日夜モ改心ト小役方ハ許ハ出處

小吏憤ラ曰ク汝等我ノ弄スル己ニ教度及ヘリ己後汝等ノ繼

我ニ於テ斷然關係セスト云フ

○五年八月十六日木場村異徒藤澤兵作伴惣太良ナルモ同村地藏尊ヲ

擊碎キシ此同九月廿二日村中正夜會議ヲシ右惣太良方擊碎セシ

地藏尊ヲ元ノ如ク造リ飯スヘシト嚴ソカニ應接ニ及ヒシニ同人モ恣クナリ

右造リ還スヘシ尤モカイゲシ是ハ山像類ヲ新ニ安置スル時ハ先ツ僧ヲ請ヒハ村方ニ

ナシト下々サルヘシトナリ

○同七月中廣尊南各ノ硯ト金ニ歩ヲ盗ミモハ木場村異徒三不五良伴米

伴ナリ同人年十六七歳ナリ

○同九月十日 大神宮尊札渡シ時木場村異徒米二郎三木五

良勇吉三名改心ノ上右 神札條受セシカ同十月十六日平戸出張

所ヨリ同村異徒教諭ノ為縣負出張ノ時又々入宗スルトテ右神札ヲ

返却セリ

○同七月木場村異徒ト室龜本村異徒ト西三人同尊内古江フルエトテ所ニ營

生ノ為蒲苗中木場村異徒某枕箱ノ中ニアリシ金半圓程紛失セリ

盗ミシモノハ同伴ノ室龜本村并助伴藤右三門ナリト

○五年十月十六十七、兩日當尊村下方、四城下平戸出張所ヨリ縣負出旅ヲ異

徒教諭ノ節赤松村異徒齋作祖母同村同志香五良母右西女改心セシ

香五良ナルモ大憤ツテ曰ク如何ニ母ナリトイハレ我ニ一慮ノ告テヲ繼ヒテ改心セシ

不快至リテ以來母ノ儀ハ百支顧リミスト云テ終ニ母子ノ間ヲ絶セリト

○當尊村々浦々ノ赤露ノ異徒家族死セシ時正徳ノ如ク僧侶ヲ請ヒ桑常ノ葬

式ヲナスト雖僧侶ノ棺中ニ入シ血脉ト云モノヲ血脉ト云モノヲ異宗取付其宗ニシテ

隙ヲ窺カテ取リ捨ツルヤ若シ隙ヲ得ナル時ハ一慮其儘葬リ置然ニ後夜

中亦他見ナキ折リテ窺カテ夫妻亦親子凡才ニテ竊リテ其墳墓ヲ堀リ穿テ
棺内ニル處ノ血脉等梵臭アルモノヲ惣テ取除ケ彼カ宗門ノ書物等入レ又々葬ル

ト云

○同ク十月十六日異徒教諭ノ時寶龜輪神取異徒早治神取細藩ヲ出ナルモノノ縣

員叱シテ曰ク汝ハ白藩ノ時ハハケノ勢ニモ致シテカラ東西不知愚民ト同ク異宗陷

リ政行ハ對シ痛若惡心ヲカケ奉ル甚々不忠不義ノ至リテ余聞リ

キリシタシノ宗門ニテハ血ヲ見テ昇天スト汝ヲ茲ニ速ヤカニ割腹シノ昇天ナスシト

ヲ一言ニ如何ナル早次モ困迫シタ、関口黙坐シテアリシト翌十七日モ取口ノ如ク異徒
ヲ呼ビ出セシニ古早次ナルモノハ、病氣ニ託シ不出願セシト

○小田村所々木重吉ノ事、寛文五年六月異宗ノ陷ヒリシニヨツテ直チニ離縁セシ処

同人子四人ニ母トメ手ヲ携ササテ親郷ニ飯ヘリシカ、古重吉ナルキ親子ノ情愛ニ堪ス

子四人ヲ取返シ度心中ニ其身ニ實ハ愛情ニヒカサレ入宗ノ思ヒアリシ故同村正

徒等強ラ曰ク彼徒追々、郷政府ヨリ郷所置アルニ夫マラ堪忍スシナド度々

正徒義言ニ勉マサレ稍ヤ養伏シカリシカ、重吉ナルモノ一月上旬他行

自路大川原村ニ嫁セシ日、晝ノ味ノ便リヲ以テ吾カ愛ヲト思ヒ焦ル、子ヲ吾方ニ返

テトテ語シテ聞キ慨然トシテ心ノ乱レ思愛ノ切心マルカテ、同村異徒山田平

助方ヘ到リ、平助方ノ取返ス手段二夜程止宿セシ中平助曰ク汝カ日晝トメ、先般已

室龜村内小場村ニ嫁シタハ、汝カ愛見ヲ如何程取リ返シ度思フ、トメニ於テハ四人

返ス心モ願フケルハ、愛子ヲ取リ返スハ叶フマシ、俟シ汝カ當宗ヘ入リ、亦手段

アルニテ、種々破言ヲ吐キテ煽惑ニ擦撥シケレハ、恰モ烈火ニ油ヲ加テ、愛情マク、熾

ニテリ、早々自宅ヘ飯ノ費、父仇々木重吉門ニ示シテ曰ク、書ニ離レ子別ニテ、獨身ニ

トテモ生活ナリカニ底ヲ今日ヨリキリシニ宗門ハ入ルベト云々シケル實ニ大ニ愕キ
或ハ叱シ或ハ省メ種々訖諭ヲナストイハモ毫モ耳スルコトナリ然レニ入宗スルヨリ村
方ニ發シ在来ノ
神ノ佛像ヲ取リ除クニキキ同村萬指ナルモ乞請安置

ト實父堂元工門ニ隱居別宅ニテアリケル故重指方ハアリシ祖先ノ位牌等ハ隱居
移シ親子断然引キ別レタリ
右ノ云々カ文ニ浦上庄ヲ小田村内ノ處ニ居シ
然レニ古父ハ在古ノ見古年ナレモノ處留シテアリ

○六年一月九日大勝村村寄リノ日
子村寄リト毎年一月九日村中同集會ニテ
諸般ノ議スル日ナキ 則チ村氏集會ノ
大英徒方ハ使シテ遣リシテ曰ク今日ハ毎年ノ如ク村寄ナレハ足下等モ出願アルベト

然レ處異徒人モ来ラスコトヨツテ兩三度モ使シテ是是非非ニ出願アルベト催促
此異徒等止シ得ス出願ス則チ村吏彼徒ノ對テ曰ク汝等昨年異宗入門

ヲ願ヒ出又 神佛ノ關係村中絶交ナト申シ出シニツキ則チ村方ヨリ渡
リシ割田畑割山林等スレ引揚クハ昔村中ヨリ申シ渡シアリシ處自然等閑
古山田等ヲ汝等從來ノ如クトリアツカシ居シ處今日村寄ノ上村中ノ變議ニ

神佛ノ祭禮法事ニ關係スル村中ト絶交ニ村中ニ在リテ村氏ニアラハレ古山田等
断然引揚クハシト云々然レハ汝等如何思フヤ今日ヨリ改心シテ從來ノ如ク割山田等

乞請^レ心^ノ口^ノナキヤト 懇^クト 詭^ニ諭^ス ストイハレ 更^ニラニ 耳^ニ入^レル 故^ニ終^ニ古^ノ山^ノ口^ノ等^ノ断^リ然^ト
引揚^ケニ 村^中ニ 實^ハ當^今異^徒トナリシカレ 従^来村^内住^居ノ者^ナハ 忽^チ生^活
道^ヲ絶^シム 不^仁ノ至^リナレハ 村^落ニテ 少^クタツ 田^畑ヲ 典^ハラキ

政^府所^置ヲ 相^待ツ 所^存ナリシヨシナレバ 余^リ異^徒ノ 強^情ナルニヨツテ 止^ラ得^ス
山^田ヲ 引^揚ケシト

○寶^龜水^場ノ 村^ニ六^年二^月十^日本^勝村^ノ仲^ノ異^徒割^山田^等引^揚ケシ
赤^松村^ノ異^徒内^ノ居^所者^ノ所^持ス 处^ノ田^畑村^方ヨリ 昨^日復^引揚^ケ方^ニ彼^徒植

シテ 亦^種ヲ 引^揚ケシ 亦^種ハ 彼^徒ハ 引^揚ケシナリ

○寶^龜水^場兩^村ノ 異^徒等^ニ二^月十^八日 同^色小^頭方^ハ出^願シテ 曰^ク先^日我^輩所^持
田^畑引^揚ケシ 實^ニ生^活ノ 道^ヲ切^リ 困^迫ノ 至^リナレハ 我^徒

郡^所置^早々^下シ 給^ハル 様^村中^{ヨリ} 出^願シテ 下^サル 事^ナリ 然^ルニ 同^夜初^祈禱^為
村^中集^會セシ 故^其席^於テ 古^小頭^異徒^願セカクシナリ 衆^議如^何ニ 示^シセハ
衆^人曰^ク彼^等自^身ノ 適^意ニ 天^宗セシナレハ 自^身ノ 適^意

政^府出^願シ 郡^裁許^ヲ 受^クヘシト 返^答セラルヘシト云^フ

○水場村異徒内間改心シヨシヲ村中申シヨルモ有ト雖先年旧藩時彼徒已ラニ露顯シ 政府ハ許ハ出ツヘキ処ヲ古徒種々懇願改心一札ヲ村方指シ出シヨツテ 出許ニ及ケル処今般ナク懲ラスシテ又宗トシテ故村中大ニ憤ツラバ先年村中欺ハキナカラ又改心ヲ申出村中欺ハキトス今度汝等カ姦計ニ陥ラストテ一切聞キ入レサレト

○二月十日^解小田村内石魚田金之丞村勝村正作懸ト空龜村異徒兩三人長壽天主堂向テ出立ヒシトエレ必ラス先日ヨリ正徒ノ擧ガテ報知奉ナラシカ

○六年二月小田村々寄將改心セシ者如左

- 一 長壽浦^{ウラ}村生 久五郎
- 一 同 清七
- 一 平屋^{ヘラ}内系屋村生 傳藏

三名

○同二月十九日空龜村戸長所同觸内小場村里宗小教師留原ナルモ同徒三名從々々何方歎願為到リナリ其趣意ハ不明ナリ

○木勝村未露異徒也

一

佐助

一

公治

一

清治

一

政一

一

徳高

ノ五名

○^{ニハヤ}紫山村旧城下ヨリ本ノ異徒^ノ家^ノ名^ノ氏五郎^ト右^ノ者^ト旧城下近邊或家到然處

其家主民五郎^トシテ曰ク^ク吾下ニ生活ノ計^リニ窮ス^ルト聞然^ラハ地方^ノ繁^ハハ^ハ平^ノ高^ノ平^ノ平^ノ平^ノ

神寄^シト子^ト西^ノ所^ニ是^レ夜^ニ移住^シタ^ラハ活計^ニ安^カラ^ニカト^ト同人答^テ曰ク^ク未^ダ其^レ村^内ヨリ

木勝^ノ也^ト所置^ル其^レ處^ニ移住^セト^ス

○六年二月下旬^ニ相指^テ村^内長^内山^吉郎^ノ内^命ニ^ツテ^テ木勝村^ノ異徒^ヲ同村^村吏^ト

宅^ニ集^ツテ^テ村^吏諭^シテ^テ曰ク^ク汝等^ノ改^心ハ^ハ是非^トナ^サル^ヤ否^ヤト^ト異徒^同答^テ曰ク^ク

我輩^日夜^當宗^法ノ^ノ信^仰ヲ^タシ^テハ^ハ天^カ地^ト變^スル^ハ改^心ハ^ハ切^セザ^ルナ^リト

○六年二月下旬大川原村異徒がヨメ女死をシカ葬式、節棺、前後二層と、如環
其環、釵ニ振、鞆、脱シテトヲシハラトサケタリ、實ニ奇怪ノ事ナリ。

○紐指村觸深川^{フカカワ}ナル処ニ人家七軒アリ、然レニ正徒ハ懸カニ六家アリト云、在

夕夕ニシトナリ

○寶龜村市兵衛伴猿五良^{ナレモ}今ヨリ十年前病死シ、則チ地下ニ葬リシラ

其何者ノ所ニ、ナルカ右墳ヨリ少シ隔リシ処、ヨリ地ヲ穿テ、漸ク墳ニ近ツキ、終ニ

地下埋棺ノ処ニ到リ、猿五郎ノ死體ヲ棺ヨリ出シ、右墳ヲ少シ隔リシ式ナリ、傍ニ

持テ上リ、食ヒトシ、身葬散リ、食ヒ乱シ、亦今ヨリ三年前同村永左
工門伴死シ、同シク地下ニ葬リシヲ、如前穴傍、食ビシアリシト

○六年二月中旬木場村異徒、瓢箪多作ノ老母死シ、桑帝ノ如僧侶請葬

式ヲナシ、赤々出棺、最、僧侶棺内ハ入シ、血脈^{ナリ}僧ノ厨^{ナリ}行キ、間ニ取リ

捨

○同二月木場村異徒善二良、又藏留作金藏、四名同村戸長赤村中、出願シテ、四、如

是田畑等ヲ引揚ケ、一、日ニ活計立テ難シヨリ、政府ヨリ早々、御所置

下^カサレ^ル 様^ニ足^ル下^等ヨリ 出^ル願^給ハ^ルシト云^フ

○六年三月一日中野村異徒所持ノ田畑等ヲ村方ニ引揚ケ^テ異徒等歎願^シテ

曰^ク右田畑^ヲ七^テシテ^ハ活計^サラ^シシ 何卒代償^ヲ以^テ右田畑^ヲ賣^リ下^ケ給^ルル^シト

村中答^リ曰^ク是下等ハ 神祿佛事等ニ關係^スル者名無^シ賣^ル村民^{十六}村

方^ノ田畑^一寸^ニ典^ハ難^シト加^シ之^ル異徒等^ノ居宅^ノ傍^ニアル防風^ノ諸木^ハ村方^ノ地^ニ

生^シモ^ナリ^ト一^樹モ不^残サ^ス同^ク百^中切^リ取^リタ^リト

平戸郷部終

旧平戸管内之部

○平戸郷^ハ枚^ノ攀^ニ建^トマ^ラス^トイ^フ 旧平戸管内異徒家^百九^家

一 神^ノ寄^ノ村

九家

一 シ^ト子^ノ村

十七家

小倉縣之部

○小倉縣^外中津^村内^今行^村真^在所^谷前^ト方^ニ新^後生^ト称^ス異^氏一

人アリ名ハ武藏^{ト云}曰来大貧民ナリ方今俄カニ富民トナレリ之ニツテ村
中大ニ怪シトイヘリ

○去年十月頃同縣内ヲ徘徊シ異客アリ頭ニ帽子ヲ蒙リ面ヲ障クシ
身ニケツトラレテ著シ右手ニ鐵杖ヲ携サヘ左手ニ大イナレ囊ヲ持テ其囊
中ニ餅或ルハ菓子密柑ヲ入レテ村々ノ児童共ニ同月七日ツルカ小袋村ニ
到リ則チ同村孫セノ童兒亦乳母ニ菓子ヲ共ニ速ヤカニ食セヨト勸スル
則チ食セシ処兩人ハ忽チ臍臍腦乱ニテ右菓子等ヲ吐キ出タリ又右者

所ニ於テ握リ飯ヲ道路ニ捨テ置クニモ大猫ヨリ食スル時ハ忽チ死スト

○同縣内上唐屋^{ウエノヤ}ノ是助^{シタケ}ハ井中ニ糞ヲ入レシ囊ヲ入レテアリシ下唐屋^{シモノヤ}同ハ
怪事アリシ

